

印教研音楽科分科会日程

- 受付 9:00～ 9:30
座席を各部会ごと、なるべく中学校区で座ってください。
- 開会行事 9:30～ 9:40
- ①開会の言葉
 - ②部長挨拶及び助言者紹介
 - ③司会記録紹介
- 研究協議 9:40～15:10 (途中休憩含む)
- | | |
|----------------------|-------------|
| 提案1 (2部会) | 9:40～10:00 |
| 提案2 (3部会) | 10:05～10:25 |
| 協議1: 提案1について | 10:25～10:50 |
| 協議2: 提案2について | 10:50～11:15 |
| 休憩 | 11:15～11:30 |
| 講評1: 提案1、2について | 11:30～12:10 |
| 昼食休憩 | 12:10～13:10 |
| 提案3 (5部会) | 13:10～13:30 |
| 協議3: 提案3について | 13:30～13:55 |
| 紙上提案 | 14:00～14:20 |
| 休憩 | 14:20～14:40 |
| 講評2: 提案3、紙上提案、全体について | 14:40～15:10 |
- 各中学校区情報交換会 15:10～15:30
- 合唱練習 15:30～16:10
- 閉会行事 16:15～16:30
- ①研究部長より
 - ②諸連絡
 - ③閉会の言葉

分科会名	音 楽	責任者	山崎 和成
助言者	濱田素子 北総教育事務所指導主事	推進委員	會田智恵子 岩澤一枝 千代島なつき 渡辺久美子 佐藤忍 宇津山和美
司会	1部会	記録	1部会
研究主題	音楽の美しさを聴き取ろう 感じ取ろう そして伝え合おう ～一人一人の思いや意図を実現するための授業づくり～		
主題設定 の理由	「音楽の美しさを聴き取ろう 感じ取ろう そして伝え合おう」を主題とし、一人一人の思いや意図を実現するための授業づくりを研究することとする。すなわち、子どもたちが音楽に出会い、思いや意図を共有し、その実現に向かって主体的・創造的に音楽活動に取り組めるようにする研究である。 各領域の指導項目と〔共通事項〕で示している指導内容ア、イとの関連を図ること、知覚と感受の関わりを捉えられるようにすることを大切に、音楽の学習の特性を生かした思考・判断・表現する力を育成する。また、音楽活動と言語活動の往還を図り、豊かな音楽表現をすることや音楽を聴いて味わいを深めていくことのよさを、子ども自身が実感できるようにする。 一人一人が、感性を働かせ楽しく音楽に関わり、音楽を学習する喜びを体得している姿をめざし、授業づくりの研究にあたる。		
研究の経過	5/9 研究部総会にて研究主題および研究計画の樹立 その後、各部会ごとに研究推進について具体的な取り組みを検討 6月 提案者と研究内容についての検討 7・8月 提案内容の最終確認、印刷、打ち合わせ		

平成29年度 第67次印旛地区教育研究集会
音楽分科会提案資料

音楽研究部研究主題

音楽の美しさを聴き取ろう 感じ取ろう そして伝え合おう

～一人一人の思いや意図を実現するための授業づくり～

研究副主題

「自信を持って歌唱表現する力を育む指導の工夫」

～変声期の生徒に対する配慮と自信を持って表現させることを大切にして～



第三部会

白井市立桜台中学校 鹿野谷 毅

1 印旛地区音楽研究部研究主題

「音楽の美しさを聴き取ろう 感じ取ろう そして伝え合おう」

～一人一人の思いや意図を実現するための授業づくり～

2 研究副主題

「自信を持って歌唱表現する力を育む指導の工夫」

～変声期の生徒に対する配慮と自信を持って表現させることを大切に～

3 研究副主題について

(1) 学習指導要領から

音楽科の目標は、「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う」とある。音楽の学習は、活動を伴うことにより音楽に親しみ、楽しさを体験し、美しさを感じ取りながら学習することである。生活に音楽を生かし、生涯にわたって音楽を愛好しようとする思いは、音楽のよさや美しさを感じ取ることによって形成され则认为している。合唱活動では、活動によって生まれる喜びや楽しさによって、一人一人が達成感や感動を味わうことができる。このことを生かして楽曲のイメージを広げ、自分の思いを伝え合いながら表現を工夫する力を育てていきたい。

そこで、歌唱の表現活動を行う上で避けて通れないのが変声である。学習指導要領では、「変声期について気付かせるとともに、変声期の生徒に対しては心理的な面についても配慮し、適切な声域と声量によって歌わせるようにすること。」とある。多くの生徒は小学校高学年から中学校の段階で変声期を迎える。変声とは、第二次性徴に伴う身体の変化によって、声帯に変化がおこり声域や声質が変わることである。特に男子においてその変化が著しく、思うように声が出なかったり、声を出そうとして苦しくなったりすることがある。この時期は成長の個人差が激しく、変声する前の生徒、変声中の生徒、変声が終わりに近付いた生徒が混在しており、それぞれに不安を抱えていることも予想される。

本研究副主題ではこの点に着目し、男子生徒が自分の変声に気が付き、変声をうまくコントロールしながら、不安や羞恥心をもつことなく、自信を持って歌唱表現することを大切にできるような指導を工夫し、取り組んでいきたいと考える。

(2) 学校教育目標から

桜台中学校は、平成6年に「オープンスクール」「コミュニティスクール」「ゆとりと魅力のある学校環境づくり」をコンセプトとして、千葉ニュータウン内の白井市桜台地区に、桜台小学校と併設され、同時に開校した。小中の校舎は隣接しており、2階通路でつながっている。校庭・体育館などはそれぞれに設置されているが、3つの音楽室は共用となっており、中学校棟に設置されている。過去に音楽科を軸にした小中連携の研究指定を受けていた名残もあり、音楽の授業や吹奏楽部などでの交流は、現在も行われている。

普通教室は小・中学校ともにオープンスペースとなっており、各学年のフロアが、4つの教室に仕切られている。現在では小・中学校ともに各学年2～3クラスの学級数があり、桜台小学校の子どもたちが、そのまま桜台中学校に進級するため、桜台中学校の生徒は桜台小学校からの児童が大部分を占めている。

本校の学校教育目標は、

「夢を持ち自ら伸びる心豊かな生徒の育成」～夢・こころ・汗～

- ①意欲的に学び、活きた学力を持つ生徒（知）
- ②思いやりのある心豊かな生徒（徳）
- ③健康でたくましく生きる生徒（体）
- ④自ら気づき、働く生徒（奉仕・勤労）

とあり、本研究では、①意欲的に学び、活きた学力を持つ生徒（知）の部分に、研究副主題である「自信を持って歌唱表現する力」の部分に関連させ、②思いやりのある心豊かな生徒（徳）の部分に「変声期の生徒に対する配慮」の部分に関連させて進めていきたいと思う。

(3) 生徒の実態から

全校生徒の80%以上がニュータウン内の団地や戸建てから通学しており、他の生徒は農業地区や昔からの集落から通学している。本校の生徒は、温和で素直な生徒が多く、いろいろなことに対して一生懸命に取り組んでいる。保護者の教育への関心は高く、時間の大半は部活動や塾、習い事などで放課後以降の時間を過ごすことが多い。

学習面では、全体的に知識・理解の面で優れており、授業中も意欲的に取り組んでいる。

音楽に対しては学校全体で取り組んでおり、帰りの会では歌声活動を取り入れている。合唱コンクール以外の通常時はオープンスペースを利用し、学級枠をこえて学年全体でパート練習や学年合唱など、工夫を凝らした形態で委員会活動を中心に行っている。

男子生徒については、変声の進み具合が通常よりも少し遅れている生徒が多く、3年生でも夏休み前の時点で“c”や“d”の音が不安定な生徒が2割程度存在する。しかし、自分たちの音域を把握し、日頃からの合唱活動や歌のテストなどで自分の声を上手にコントロールしながら表現している生徒も多い。

本研究を通して、一人一人の生徒が自分の成長と向き合い、意欲的に生き生きと音楽を表現できるよう育てていきたい。

4 研究仮説

【仮説1】学区の小中学校で連携し、小学5年生から中学3年生までの男子の変声の状態を一貫して把握し、データとして活用することにより、スムーズに合唱活動に取り組めるだろう。

【仮説2】自分の変声の進行状況と声域を常に意識できるような環境を作ることにより、自信を持って歌うことができるだろう。

5 研究内容与方法

【仮説1に対して】

①声検査（最低音の確認）の活用と、変声の度合いの分析

生徒一人一人の声域を把握し、状況を共有し合う。

【仮説2に対して】

②合唱隊形や座席の工夫

変声の度合いや生徒指導上の配慮を基本にした合唱の隊形や座席を工夫する。

③発声練習の工夫

その時々状況に即した発声練習の行い方を工夫する。

④歌唱評価テストの実施方法の工夫

変声の度合いに応じた音域による歌唱テストを行う。

⑤小中交流授業の企画・運営

桜台小5年生と桜台中3年生による、音楽科の交流授業を企画・運営する。

6 研究の実際

①声検査（最低音の確認）の活用と、変声の度合いの分析について

本校音楽科では、男子の最低音を確認する「声検査」を行った。生徒たちは学期に一度の「声検査」を楽しみにしており、声が低く変声していくことに強い憧れを持っていた。声の低い生徒には自然と尊敬が集まり、ある種のステイタスを持つこととなった。合唱曲に取り組みするときも、そういった生徒達の中から「自分たちが男声の中心になって声を張ろう」という責任感が生まれた。

◆映像資料(1)「中学生の声検査」(中学2年9月/現中学3年)

※資料(1)「男子低音域検査表」(中学校①)

また、昨年度より、変声が始まる5、6年生の男子児童にも協力を依頼し、小学校高学年男子の声域を調査すべく、声検査を年に3度行った。

◆映像資料(2)「小学生の声検査」(小学6年5月/現中学1年)

⇒他の児童より、極端に音域の低い児童を発見する

②合唱隊形や座席の工夫について

音楽室での男子生徒の席順は声検査の結果をもとに決めた。学年や全校の合唱などで学級を超える場合も声検査の結果“声の順”を活用し、同じ声域の生徒同士を近くに配置することで、安定感と濁りのない透明感のある音色を引き出すことができた。もちろん、順番は声検査のたびに随時組み変えた。

※資料(2)「1、2年6段組隊形図」

③発声練習の工夫について

本校音楽科ではペットボトルの先端を活用し、ハミングを中心に発声練習することで喉への負担を軽くし、いわゆる“8 v a 低い男子”の発生を極力抑えようと試みた。

◆映像資料(3)「ハミング中心の発声練習」(中学3年卒業式当日の朝/現高校2年)

④歌唱評価テストの実施方法の工夫について

歌唱評価テストの伴奏は「学校用オルガンSE7000」の自動演奏で行った。女子生徒と変声が終了したと思われる男子生徒は“原調”で演奏するが、変声の進みが遅い男子生徒には「移調機能」を利用し、2度～4度高く移調して伴奏を行うようにした。これにより、自分の声がもっともよく響くコントロールしやすい音域で、強弱や音形などを工夫した豊かな表現を伴いながら自信を持って歌うことができた。

◆映像資料(4)「傾向別の歌テスト場面」

【A君】 順調に変声が進んでいる生徒(現中学2年)

※《 》内は最低音の推移

(4)-1 [夢の世界を/原調] (中学1年12月) 《E-E♭》

【B君】 変声初期で、配慮が必要な生徒(現中学2年)

(4)-2 [夢の世界を/原調] (中学1年12月) 《G-G》

(4)-3 [同/長3度高く移調] (同)

(4)-4 [そのままの君で/長3度高く移調] (中学1年3月) 《G-G-G♭》

【C君】 「変声がとても遅く、ハスキーで歌が苦手な生徒の3年間の成長を追う」(現中学3年)

(4)-5 [そのままの君で/原調] (中学1年3月) 《G-F-F》

(4)-6 [そのままの君で/完全4度高く移調] (同)

(4)-7 [心をつないで/原調] (中学2年12月) 《G-F-F-E-E♭》

(4)-8 [道/原調] (中学2年3月) 《G-F-F-E-E♭-E♭》

(4)-9 [花/原調] (中学3年7月) 《G-F-F-E-E♭-E♭-D》

【D君】 変声が順調で、3年間を通して学年の男声の核だった生徒(現高校2年)

(4)-10 [HOWEVER/原調] (中学3年3月) 《G♭-D-H-A-G-G♭-E-E♭-D》

【E君】 変声が遅く、3年間移調の配慮を続けた生徒(現高校2年)

(4)-11 [HOWEVER/原調] (中学3年3月) 《F-E-E-D-D-D♭-B♭-G♭》

⑤小中交流授業の企画・運営について

過去に音楽科を軸にした小中連携の研究指定を受けていた名残で、音楽授業での小中の交流が、現在も小学5年生と中学3年生の間で行われている。自分の着任当初、内容については“合唱を小中でお互いに発表しあう”程度で、特に引き継ぎもなかったもので、その交流授業の位置づけをどのようにするかを模索した。結果、一小一中の利点を生かし、合唱を発表しあう事の他に、(1)小中で親睦を深める、(2)互いの成長を確認しあえる、の2点を念頭に授業を組み立てた。具体的には以下の内容で行った。

桜台小中交流授業 ・あいさつ(中学校の号令) ・授業の説明(鹿野谷)

・じゃんけん列車(小中でじゃんけん) ・ウォーミングアップ(小中で2人組) ①肩入れ×10回

②脇腹伸ばし×10回 ③背中乗せ×10秒 ④ひねりハイタッチ×10回 ⑤タタタン

⑥手合せ：ひとつの輪になるまで

・桜台小学校校歌(声の感じを比較しよう)

・中学校から(自由曲) ・小学校から() ・お礼の言葉(中学/小学) ・あいさつ(小学校の号令)

この中の「桜台小学校校歌(声の感じを比較しよう)」は、小中双方が知っている桜台小学校の校歌を題材に、冒頭部分を歌い合って、声の違いと成長を感じ取らせた。

◆映像資料(5)「小中交流授業」(小学校校歌の歌い合い)

7 分析と考察

①声検査(最低音の確認)の確認と、変声の度合いの分析について

シールで最低音を一覧表にすることにより声域が一目瞭然となったので、その生徒の状態に即した様々な指導や配慮を行うことができた。蓄積されていくデータにより、変声の度合いを様々な角度から分析することができたので、生徒の心理状態を知ったり、思わぬところで生徒指導につながったりすることもあった。

※資料(3)「生徒指導につながる男子低音域検査表」(中学校②)

昨年度からは小学校の協力により、高学年男子のデータを目にすることができた。1年間を通して計測してみてもあまり変化のない児童が多かったが、それでも少しずつ変声は始まっていることが分かった。また、成長が早く、極端に音域の低い児童も発見することができ、その児童が中学校に上がってからの指導に生かすことができた。

※資料(4)「男子低音域検査表」(小学校6年)

②合唱隊形や座席の工夫について

音楽室での男子生徒の席順が“声の順”であることについて生徒は納得しており、目に見える“背の順”のように“自分は〇〇君より声が低い”とか“前より声が低くなったので席の位置が変わった”ということに敏感になった。さらに、“早く自分も外側(バス側)に行きたい”と願い、声検査でない日も検査を要望してくる男子生徒も少なからず現れるようになった。

また、日頃の学習の成果を発表する機会として、予餞会での「1, 2年生からの合唱」と「3年生からの合唱」は大切にしたい。従来の“フロアで3年生を囲んで歌う”や“1, 2年生の方を向かってフロアで歌う”の平面隊形よりも、声域や身長に配慮して作成した立体的な6段組(3年生は4段組)で合唱した方が歌いやすく、表現も豊かなものに変化していった。

◆映像資料(6)「変声に配慮した6段組の合唱場面」(1, 2年予餞会)

③発声練習の工夫について

ハミングを常に意識させることは、尖らない、柔らかい発声を引き出そうとする目的もあった。教師主導ではあるが、授業や合唱関係の集会の際は必ず行った。

また、合唱でハーモニーを作る際にもペットボトルを活用し、ハミングで歌うことは必須にした。歌詞（言葉）が入らない分、生徒は音程に集中することができ、身体でハーモニーを感じることができるようになってきた。

④歌唱評価テストの実施方法の工夫について

カラオケのキーを変えるように伴奏の移調措置ができる事を知ると、いつもは周り（原調）に合わせ、歌いづらそうな様子でありながらも“こんなものか”と思ってしまいがちな変声の遅い男子生徒たちも、水を得た魚のように生き生きと歌うようになった。また、小学校の時に極端に低い音域を発見された生徒が入学してきた時には、明らかに“8 v a 低く歌う”状態であったが、こまめに声をかけて励まし続けた結果、7月の時点でほぼ原調をなんとか歌い、完全4度低く移調すればだいぶ楽に歌えるようにまで変貌していった。

◆映像資料(7)「小学校時に極端に低い音域が発見された生徒の歌テスト」(現中学1年)

(7)-1【翼をください／原調】(中学1年7月)なんとか原調で歌っているが、苦しそうである

(7)-2【翼をください／増4度低く移調】(同)原調よりは楽に発声している

⑤小中交流授業の企画・運営について

中学生にとっては、4つも歳の離れた小学生と触れあう事は新鮮で、ゲームやウォーミングアップなども、弟や妹の相手をするように親切に接し、普段あまり見ることがない一面も見ることができた。また、小学校の校歌を久しぶりに歌い、目の前の小学生と自分たちとを比較し、改めて自分たちの成長を確認することができた。小学生は、感想文にもあるように、男子の変声に気づくことができた。将来の自分を予想し、やがて必ずやってくる変声に対して、希望を持てた児童も多数いた。

※資料(5)“小中交流授業の感想”

8 研究の成果と課題

成果

- (1)男子生徒は変声を常に意識することができ、変声の進行状況に応じて音域をコントロールし、自信を持って歌うことができるようになった。
- (2)小学校との連携により、高学年からの声検査や、小中交流授業を行うことによって、児童生徒は変声をより身近なものとしてとらえ、誰にでも訪れる成長の一環なのだと認識させることができた。
- (3)変声の進行状況と声域を常に意識できるような環境を構築したことにより、変声の遅い生徒も早い生徒も自己理解が進み、安心して合唱活動に参加できるようになった。
- (4)“(1)(2)”のことで、歌テストのときなど、男子の小学校の時の様子と比較してその変容ぶりに女子が驚き、学級学年の歌声全体の向上につながり、歌唱表現も豊かなものに変容していった。

課題

男子生徒に対して自信を持って歌唱表現する力を育む指導の工夫は明らかとなったが、女子生徒に対しての指導の工夫については未開な部分が多い。これについては、今後も研究を続けたいと考えている。

研究を終えて

自分は専攻が器楽であったため、声に関する知識に乏しく、特に“男子が歌わない状態”については長年の課題であった。しかし、自分自身が経験した変声期の苦しみや、いかにしたら不安や羞恥心なく楽しく歌えるだろうか、といったことを掘り下げ、試行錯誤しながら実践していくうちに現在のスタイルにたどり着いた。

本研究は、自分の声の位置に気付くことから始まり、リアルタイムで変声期と良い関係を楽しみながら、気がついたら変声が終わっていた、というところに本質がある。

変声とは、男子生徒の誰もが経験する成長期の通過点であるが、なかなか思うように自分の声をコントロールできない、或いはコントロールできることに気がつかないことは、本人たちにとって不安や羞恥の源であり、歌嫌いや、表現することへの恐怖を生む素地となっていくのである。

第二次性徴とともに自分の身体の変化とめぐりあい、変声という先の見えない不安と向き合った時に、本研究で行われる様々な支援が、ささやかではあるが行灯のように、少し先の進路をほのかに照らす役割を果たすことができれば幸いである。

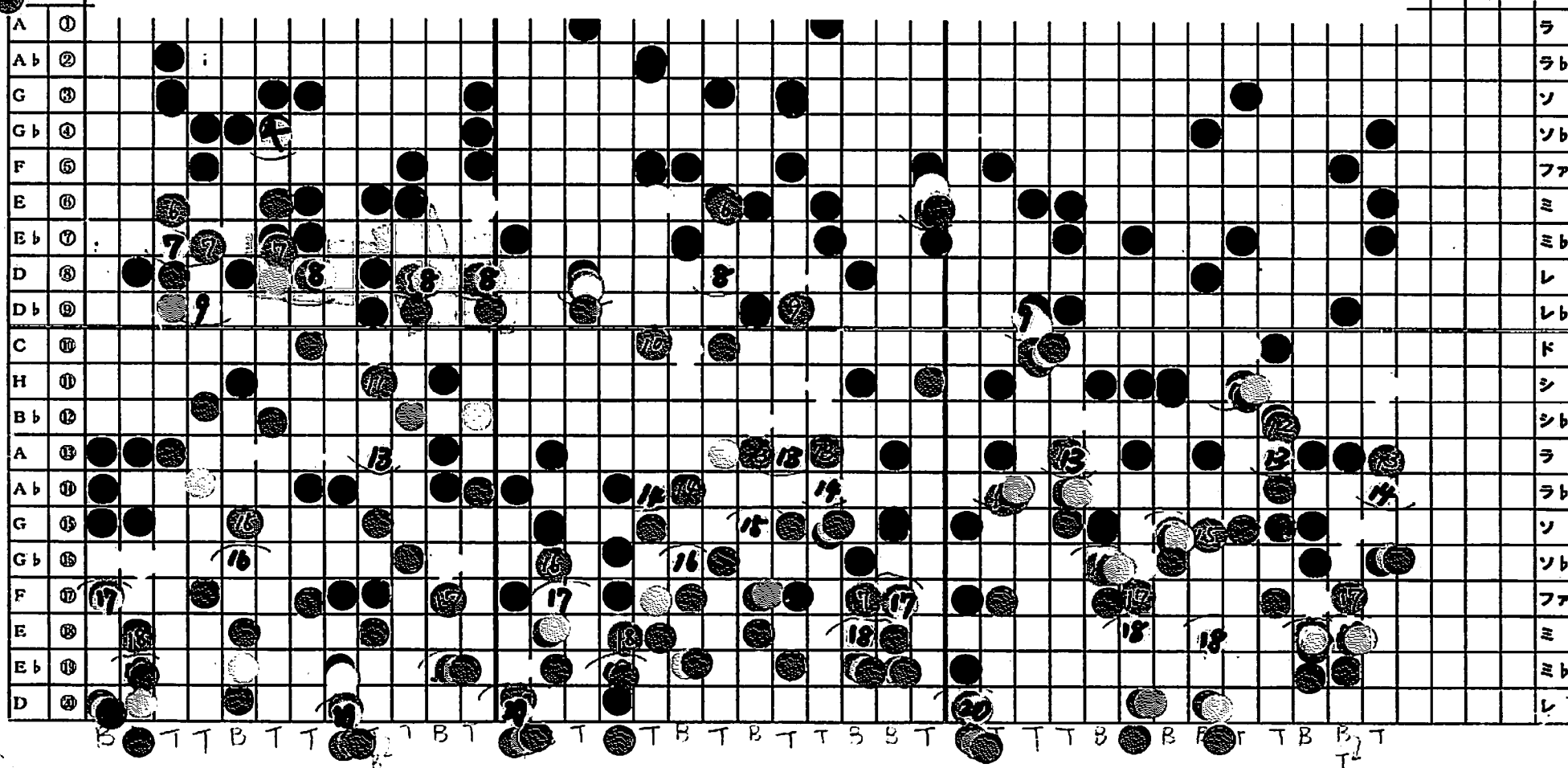
資料編



中1 始め～卒業までの男子低音域検査表／(現高校2年生)

1年：赤⇒青⇒緑 2年：橙⇒黄緑⇒ 3年：水色⇒金⇒ピンク

順調な学年/中3の1月までには、全員が“C”まで出るようになる



【2015予餞会：1，2年6段組隊形図】《「道」指揮：2年男子，伴奏：2年女子》

◎この用紙は、音楽のファイルにとじておきましょう。

←ここがステージの中心

[illegible]

※図中，“1”の人は入場時に各列の先頭になります

年 組 氏名	段目の 番	立つ場所⇒ フロア：床・イス・机 / ステージ：床・イス・机
持ち物：①なし ②音楽室イス ③生徒会室イス ④「2」の机 ⑤「3」の机 ⑥マルをつける		自分の段の入場時の先頭(1の人)⇒

【確認の仕方】①自分の名前をマークする ②自分の前後左右の人をマークする ③自分の段の先頭の人（“1”の人）をマークする
④自分が何段目で、どこに立つのか左はしにマークする ⑤自分の位置が何番なのか、最上段の番号をマークする ⑥以上をまとめて記入する

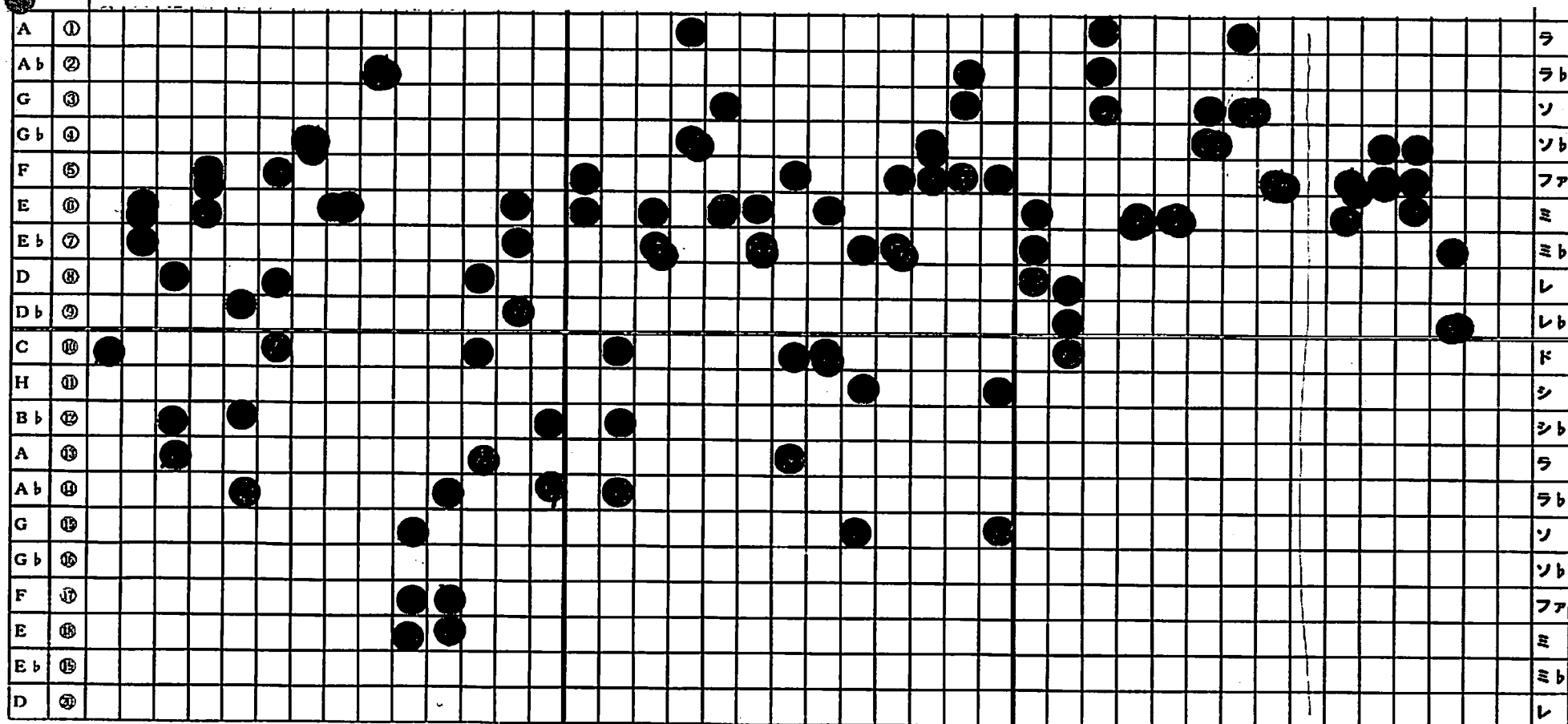
生徒指導につながる男子低音域検査表

【この学年のポイント】(現高1)

- ①入学当初の「赤いシールの位置がやけに高い」⇒変声が遅い
- ②「変声が遅い生徒ばかりが密集している」⇒振る舞いが幼い
- ③特に右側のクラスは緑のシール(3学期)の位置が高く、ほとんど変声していない
- ④右側のクラスは、授業でも最後まで落ち着かなかった

2年1年

A	A	A	A



⑥ ポイントは「1人だけ極端に音域の低い児童がいる」ということである

★ 周りの男子児童は全員裏声で歌っているが、彼は歌えない

[illegible]

11月24日(木) 音楽科小中交流授業

小中交流授業は、いかがでしたか？

小学生と中学生の声の響きの違いやそれぞれの合唱の良さを感じ取ることができたのではないのでしょうか？

今日の小中交流授業について、感じたことや思ったことを自由に書きましょう。



5年 1組 名前 男子児童

中学生の歌を楽しみにして
いました。中学生になると僕は男子
なので僕は声か低くなりず。
僕は声か高いので声か低くなるか
楽しみにです。

小中交流の中学生の歌はとてきれ
でした。ソプラノの声の高い女子と
声の低い男子の声か両方とど
聞こえてきました。

お！

20

11月24日(木) 音楽科小中交流授業

小中交流授業は、いかがでしたか？

小学生と中学生の声の響きの違いやそれぞれの合唱の良さを感じ取ることができたのではないのでしょうか？

今日の小中交流授業について、感じたことや思ったことを自由に書きましょう。



5年 1組 名前 男子児童

中学生の声は、女の子は、とてきれ
いなこえで男の子め声は、とてひ
くくて、のがとかたです

ほくも、あんな声になる人だか
と思いました。

そして、ほくたちの歌も、いい
ですが中学生には、せみせみ
かなわかいのじ、ちんと音楽
の授業を、かみばらなといけな
い、かみじました。

いい勉強になりました

2

11月29日(火) 音楽科小中交流授業

小中交流授業は、いかがでしたか？

小学生と中学生の声の響きの違いやそれぞれの合唱の良さを感じ取ることができたのではないのでしょうか？

今日の小中交流授業について、感じたことや思ったことを自由に書きましょう。



5年 2組 名前 男子児童

楽しか、たところは、じゃんけん列車で
す みんなじゃんけんかるまくて、
負けたとどはくやしか、たでも
歌で、は、男子の、声か、とても
ひくくて、ひくくりしました。ほくも、

4年後は、あれぐらい、ひくくなるのか
と思いました。ほくも、声かひくくなたら
あれぐらいうまくなれるのかと思
いました。女子も、とてもうまくて、

声か高く、男子とは、ひくくか
れた。今日は、木めにありがどう
さいました。

5

11月24日(木) 音楽科小中交流授業

小中交流授業は、いかがでしたか？

小学生と中学生の声の響きの違いやそれぞれの合唱の良さを感じ取ることができたのではないのでしょうか？

今日の小中交流授業について、感じたことや思ったことを自由に書きましょう。



5年 1組 名前 女子児童

私は、中学校に入ると、声かかえるおこ
し、とて、しました。女の子は、美しい声に、男の子とて、
たくましい声へな、て、い、て、て、て、て、て、て、て、て、て、て、て、

お兄さん、とて、て、て、て、て、て、て、て、て、て、て、て、
中学校に入、て、て、て、て、て、て、て、て、て、て、て、て、
あと、中学生、の、YEE、は、とて、て、て、て、て、て、て、て、
は、て、て、て、て、て、て、て、て、て、て、て、て、て、て、て、
れ、て、て、て、て、て、て、て、て、て、て、て、て、て、て、て、
、お、て、て、て、て、て、て、て、て、て、て、て、て、



13

平成29年度 第67次印旛地区教育研究集会
音楽分科会提案資料

音楽研究部研究主題

音楽の美しさを聴き取ろう 感じ取ろう そして伝え合おう
～一人一人の思いや意図を実現するための授業づくり～

研究副主題

「鑑賞活動において生徒が主体的に取り組むための指導の工夫」



第五部会

四街道市立四街道中学校
四街道市立旭中学校
四街道市立四街道北中学校
四街道市立四街道西中学校
四街道市立千代田中学校

石井 幸子
川勝 典子
胡田 悠理
野々宮 香里
中臺 純子

1 研究主題

音楽の美しさを聴き取ろう 感じ取ろう そして伝え合おう
～一人一人の思いや意図を実現するための授業づくり～

2 副主題

鑑賞活動において生徒が主体的に取り組むための指導の工夫

3 副主題設定の理由

(1) 学習指導要領とのかかわり

印旛地区教育研究会音楽研究部の研究主題を受け、児童生徒が音楽の美しさを「聴き取り、感じとる」ためには、まず、児童生徒自身が多様な音楽を鑑賞し、その豊かさや美しさを味わうことが大切だと考える。

幅広く多様な音楽を鑑賞し、理解を深めることで、生徒が主体的に鑑賞する姿勢を育てることにつながるであろう、と考える。そこで、鑑賞活動に生徒が主体的に取り組むための指導の工夫を授業実践を通して行うことにした。鑑賞活動と表現活動の連携を図りながら鑑賞の能力を伸ばし、音楽に対する感性を高めることが、表現して伝えていく活動への意欲にもつながるであろう。

音楽科の教科の目標は「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。」と示されている。

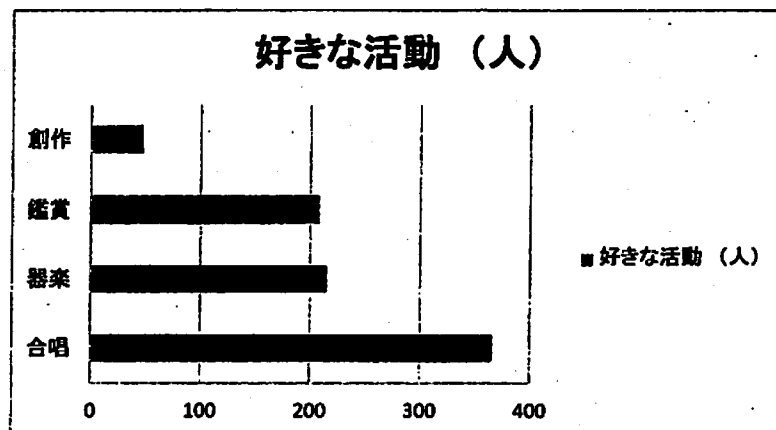
音楽の多様性を理解して鑑賞する能力を高めていくことで、音楽文化の価値を見出し、音楽を尊重する態度を育てることにつながるであろう。

(2) 生徒の実態から

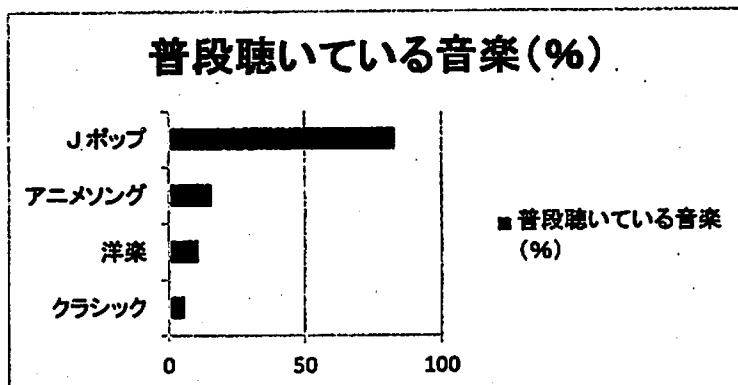
今回の研究にあたり生徒の実態を把握するため、市内中学校で同じアンケートを行った。

<実態調査より> 平成28年実施、各校2年生抽出2クラス調査

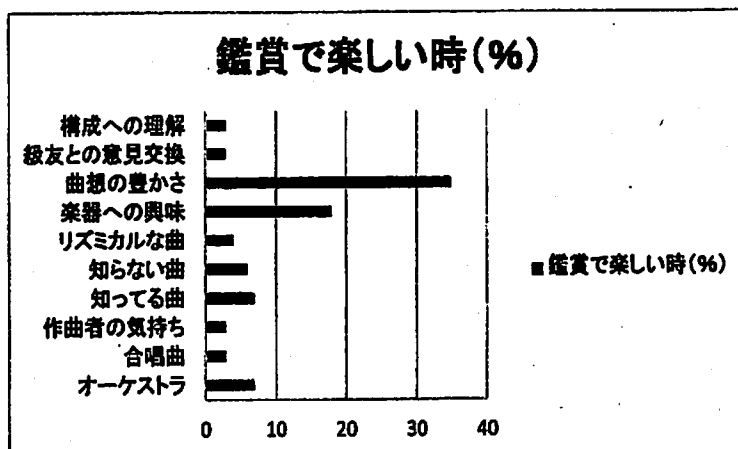
1 音楽の授業で好きな学習は？（複数回答あり）



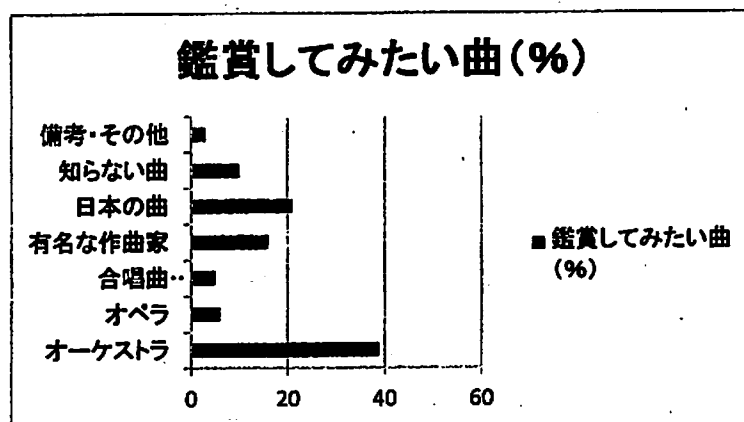
2 日頃、家で聴くことが多い音楽は？（記述式を分類した結果）



3 鑑賞の授業で、楽しい・興味深いと思うときは？（記述式を分類した結果）



4 これからの授業で鑑賞してみたいと思う曲は？（記述式を分類した結果）



5 小中学校のこれまでの鑑賞の授業で、印象に残っている曲

- ①「魔王」
 - ②「運命」
 - ③「小フーガ ト短調」
 - ④「新世界」「剣の舞」
- 「エーデルワイス」（「サウンド オブ ミュージック」より）

アンケート結果から生徒達は予想どおり、普段はJポップ等のポップス系の音楽に親しんでいることがわかった。「鑑賞の授業で印象に残った曲」には生徒にとって強い印象が残る曲や親しみの持てる西洋音楽の曲が多く選ばれており、日本の音楽は入らなかった。小学校で鑑賞した曲も選ばれている中、日本の音楽への興味が

薄いことがわかる結果となった。「鑑賞してみたい曲」の問いで、圧倒的にオーケストラの回答が多いのは、学習経験の違いであるのではないだろうか。また、少数ではあるが、「古い日本の曲」「日本の歌」「日本の楽器」と記入している生徒もあり、日本の音楽に興味を持っている者もいることがわかる。今回、伝統的な音楽について様々なアプローチを工夫し、取り組むことは価値のある研究であると考える。

4 研究仮説

【仮説1】

鑑賞指導において、日本の伝統的な音楽について体験活動を含む様々な授業展開を工夫することで、生徒がより主体的に音楽活動に取り組むことができるであろう。

【仮説2】

小中学校の鑑賞教材の系統性を見通して発達の段階に応じた指導をすることで、児童生徒が音楽のよさや美しさを一層深く味わって聴くことができるであろう。

5 仮説について

【仮説1について】

音楽の多様性を感じさせるために、日本の伝統的な音楽、特に歌舞伎「勧進帳」について、長唄、お囃子、唱歌など様々な体験活動を取り入れ、アプローチを工夫することにより、生徒の興味を引きだしたい。そのことで、自らの音楽に対する価値意識を広げ、音楽文化の豊かさに気づき、尊重することにつながっていくであろう。

【目指す生徒像】

日本の伝統音楽に興味・関心をもち、音楽のよさや美しさがわかる生徒

【手立て】

「歌舞伎」の体験

- ①長唄「雨の四季」・・・飴売りの口上の長唄
- ②長唄「勧進帳」・・・長唄のグループ学習
- ③「勧進帳」「寄せの合方」の楽器の唱歌
- ④大鼓・小鼓の唱歌と打楽器

【仮説2について】

中学校の鑑賞教材として扱われる楽曲には、ベートーベンの「交響曲第5番」のように小学校でも扱われている楽曲がある。また、小学校での鑑賞の学習の積み重ねの上に、関連している楽曲もある。そこで、義務教育9年間を一体的に捉え、題材や教材の関連性を整理してみることにした。生徒の鑑賞の能力をどのように伸ばしていくか、という系統性を見通して指導することで、児童生徒の感性を刺激し、音楽のよさや美しさをより深く味わう力を育成したい。

【目指す生徒像】

多様な音楽のよさや美しさを深く味わって聴くことができる児童生徒

【手立て】

- ① 小中学校の鑑賞教材の系統性がわかる学習マップの作成
- ② 歌舞伎「勧進帳」に関する鑑賞教材の系統性の整理

6 指導の実際

〔仮説1 手立て①〕「雨の四季」授業実践

四街道市立四街道西中学校 指導者 川勝典子

- 1 題材名 長唄の歌唱や鑑賞を通して、日本の伝統音楽に親しもう〔2時間扱い〕
 教材名 長唄「雨の四季」 池田弥三郎 作詞・山田抄太郎～飴売り
 長唄「勸進帳」 三世 三木五瓶 作詞 四世 杵屋六三郎 作曲
 歌舞伎「勸進帳」

2 題材の目標

- ・長唄の声の音色、特徴を知覚、感受し、主体的に長唄にふさわしい声で歌唱する。
- ・長唄の特徴を物語や演出などに関連づけて理解し、歌舞伎音楽のよさを味わって聴く。

3 指導と評価の計画（2時間扱い）

時	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動 ☆〔共通事項〕	・教師の働きかけ ◇評価規準 【評価方法】
	長唄の声の音色、特徴を知覚、感受し、主体的に長唄にふさわしい声で歌唱する。	
1	○身近なところで、特徴のある声の出し方が聞かれるのは、どんな時のどんな声かを確認する。 ・「石焼き芋」の売り声を実際にやってみる。 ○長唄「雨の四季」の飴売りの口上を、長唄の特徴をつかみ唄う。 ・DVDで「雨の四季」を視聴し、特徴を発表する。 ①声について ②唄い方 ③リズム ④その他 ○長唄「雨の四季」の「飴売りの口上」を学習する。 ・楽譜に書いてある記号「点線、○、△、しずくマーク等」の意味を理解する。 ・フレーズ、無声音、プレスを確認して、歌詞を読む練習をする。 ・長唄にふさわしい音色、節回しを意識しながら教師の後に続き唄う。 ・6人ずつのグループに分かれ特徴を意識しながら唄う練習を行う。 ・長唄にふさわしい声の出し方、言葉の発音や抑揚を捉えて唄い、特徴を生かしながら唄えるグループが発表する。 ☆〔音色・旋律〕 長唄にふさわしい声の出し方、言葉の発音や抑揚などを捉えて唄っている。	・石焼き芋を提示する。 ・どんな売り声だと買いたくなるかを考え、売り声の特徴を知覚し、感じとる。 ・聴く観点を提示し、どんな特徴的な唄い方かを、生徒の意見から引き出す。 ◇（鑑）長唄の声の音色、節回しを知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じ受している。【観察・ワークシート】 ・フレーズ、無声音、プレスを確認して歌詞を読む練習をする。 ・長唄にふさわしい音色、節回しを意識しながら唄う。 ・特に表現したいポイントを確認し、そこを中心に唄う。 ・DVDやCDを練習しやすいように設置する。 ◇（関）長唄にふさわしい声や言葉の特性に関心をもち、それらを生かして唄う学習に主体的に取り組もうとしている。【観察・ワークシート】

	◎長唄の特徴に関心をもつとともに、歌舞伎について知り、主体的に鑑賞する。	
2	○長唄「雨の四季」の飴売りの口上の復習をする。 ・長唄の発声や言葉の特性を感じ取りながら唄う。 ○長唄「勸進帳」を聴き、雰囲気と音楽的な特徴との関わりに関心をもつ。 ・長唄の雰囲気と音楽的な特徴について、音色、節回しを意識して聴き、ワークシートにまとめる。 ○歌舞伎の歴史、使われる楽器、舞台の工夫、歴史的背景と、「勸進帳」の物語の流れを知る。 ・歌舞伎のダイジェスト版のDVDを視聴して、大まかな歌舞伎についての背景を知る。 (歴史・楽器・舞台装置・隈取り等)	・長唄にふさわしい声の出し方、言葉の発音や抑揚をとらえている。 ◇長唄の音色、節回し拍、抑揚を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、長唄の特徴を物語や演出などに関連づけて理解し、歌舞伎音楽のよさを味わって聴いている。【ワークシート】

【仮説1 手立て①の考察】

- ・日本の伝統音楽は、中学生の多くの生徒にとって身近な存在とは言えず、歌舞伎においても興味を持ったり、実際に鑑賞をしたことがある生徒は非常に少ないのが現実である。そのような中、少しでも日本の伝統音楽に親しみ、興味を持った上で鑑賞をし、良さを知覚、感受できるよう、体験型授業を行うことにした。また、教材もリズムやセリフの内容が、初めて触れる中学生が少しでも興味や関心が持てるように、リズムを感じられる、セリフの内容も興味を惹きそうな長唄「雨の四季」を取り上げ、実際に長唄を体験してみることとした。
- ・模範演奏の映像や教師自らの実演を視聴することにより、「長唄」の声の特徴をとらえ、今まで多く慣れ親しんできている音楽との違いに気づくことができた。また、生徒自らが体験しながら発声法や雰囲気の違いを感じ取ることができたことも成果であった。その後の歌舞伎「勸進帳」での長唄の鑑賞も、自分が身をもって体験したことから興味深く鑑賞する生徒が多く見られた。
- ・2時間扱いでこの題材を進めるには難しい部分もあり、長唄「雨の四季」と長唄「勸進帳」とのリズムのとらえ方の違いもあるので、感受してほしいポイントをしっかりと提示し、おさえた上で体験や鑑賞をすることが大切であると感じた。

〔 仮説1 手立て②〕長唄「勸進帳」授業実践

四街道市立旭中学校 指導者 佐藤啓子

1. 題材名 日本伝統音楽に親しもう [2時間扱い]
教材名 歌舞伎「勸進帳」(鑑賞) 並木五瓶(3世)作
2. 題材の目標
 - ・歌舞伎「勸進帳」のあらすじを理解し、音楽を形づくっている構造や曲想を捉えながら鑑賞する。
 - ・長唄の特徴に関心を持ち、音色、節回し、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、主体的に長唄を鑑賞したり歌唱したりする。

3. 指導と評価の計画（2時間扱い）

時間	◎ねらい ○学習内容・学習活動〔共通事項〕	・教師の働きかけ ◇評価規準【評価方法】
第一次	1 ◎歌舞伎「勅進帳」の内容を理解し、鑑賞する。 ○歌舞伎について理解する。 ・知っていることをまとめ、発表する。 ・「歌舞伎とは／舞台のしくみ／歌舞伎の音楽」のDVDを見て理解を深める。 ○勅進帳の内容を理解する。 ・教科書を読み、物語の内容を理解する。 ・「勅進帳」を鑑賞する。 ・長唄の特徴や印象に残った場面を理由とともにまとめる。 〔音色、リズム、速度、旋律、強弱、テクスチャ〕 ・ワークシートに長唄の特徴などをまとめる。	・教師の働きかけ ◇評価規準【評価方法】 長唄の特徴に関心を持ち、主体的に ・たくさんの生徒が発表しやすい雰囲気を作る。 ・教科書の歌舞伎の説明や「勅進帳」の説明の部分と合わせながら、視聴させる。 ◇（関）歌舞伎や長唄の特徴に関心を持ち、音色、節回しを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、主体的に歌舞伎を鑑賞している。 【行動の観察、発言の内容、ワークシート】 ◇（鑑）長唄の特質や雰囲気を感じし、歌舞伎音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 【演奏の聴取、行動の観察、発言の内容、発表の内容、ワークシート】
第二次	2 本時 (2 / 2) ◎長唄の特徴に関心を持ち、音色、節回しを知覚し、それらの働きが出す特質や雰囲気を感じながら、主体的に長唄を鑑賞したり唄ったりする。 ○長唄の特徴を知る。 ・前時にワークシートにまとめたものを発表する。 ・ベルカント唱法と長唄のビデオを視聴し、唄い方の違いを比較する。 ・発声方法について感じたことをワークシートに記入し、発表する。 ・長唄の詞章を音読し、言葉の意味を知る。 ○長唄にふさわしい声の出し方、言葉の発音や抑揚、身体の使い方などを捉えて唄う。 ・参考演奏を聴く。 ・全員で唄い、唄い方を覚える。 ・グループごとにCDを使用しながら、唄い方について話し合い、プリントに記入しながら何度も練習する。 〔音色、リズム、速度、旋律、強弱、テクスチャ〕 ○グループごとに発表する。 ・ワークシートに感想をまとめる。	・ワークシートに自分の言葉でまとめさせ、発表をもとに長唄にふさわしい声のイメージを共有する。 ・しっかり声を出して読むようにする。 ・うまく唄えなくても、CDを聴き、繰り返し練習し、CDの声に近づけるように唄わせる。 ◇（関）歌舞伎や長唄の特徴に関心を持ち、音色、節回しを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、主体的に歌舞伎を鑑賞している。 【演奏の聴取、行動の観察、発言の内容、発表の内容、ワークシート】

【仮説1手立て②の考察】

- ・「勸進帳」の学習で初めて表現を取り入れたため、本時の展開が盛りだくさんになりすぎてしまった。ベルカント唱法などの説明はカットして、活動の時間を確保する必要があった。その後、授業をしたクラスでは、全員を床に座らせて、範唱のあとに続いて生徒に練習させる時間をとってみた。新しい体験に踏み入れていくことはエネルギーや勇気がいるが、今回この授業を行うことで、やってみることが大事であるということを学んだ。
- ・活動後、もう一度「勸進帳」を鑑賞した時には、自分の唄った音楽や特徴をより深く感じとって鑑賞したり、歌舞伎の中での表現のすばらしさを深く味わったりする生徒が、多く見られた。
- ・プロが歌っている長唄のCDを見本として使用したが、他の合唱曲などと違い、教師が自信を持って見本を示すことができない、という点で課題を感じた。

【仮説1手立て③】「寄せの合方」の楽器の唱歌 授業実践

四街道市立千代田中学校 指導者 中臺純子

- 1 題材名 日本舞台芸術に親しもう [2時間扱い]
教材名 歌舞伎「勸進帳」
- 2 題材の目標
 - ・歌舞伎「勸進帳」のあらすじを理解し、音楽を形づくっている構造や曲想を捉えながら鑑賞する。
 - ・長唄における唄や楽器の特徴や構成などを唱歌を通して擬似体験し、音楽のよさや美しさを味わう。
- 3 指導と評価の計画 (全2時間)

時間		◎ねらい ○学習内容・学習活動【共通事項】	・教師の働きかけ ◇評価規準 【評価方法】
第一次	1	◎「勸進帳」の内容を理解し、物語の進行につれて変化する音楽の特徴や音色を感じとって聴く。 ○歌舞伎「勸進帳」の内容を知る。 ・歌舞伎の構成、長唄の存在を理解する ・「勸進帳」の内容を理解する。 ・長唄について理解する。 ○「勸進帳」の流れがわかる映像を観る。	・「歌舞伎」は音楽・舞踏・演技によって構成されている舞台芸術であることを理解させる。 ・長唄が「歌舞伎」の中でどのような存在の音楽であるかを理解させる。 ・「勸進帳」のあらすじを読みながら映像と合わせて確認できるようにする。 ◇（関）「勸進帳」の映像に興味関心をもって主体的に聴こうとしている。【観察】 ◇（鑑）「勸進帳」のあらすじを理解し、長唄の音楽の特徴を感じることができる。【観察・ワークシート】
	2	◎「勸進帳」＜寄せの合方＞を口三味線と囃子の唱歌で演奏することで長唄における器楽的な音づかいや音の重なり（テクスチュア）の特徴を捉えるとともに和楽器への興味が持てるようにする。	

	○口三味線と囃子の唱歌の練習をする。 ・DVDや楽譜を使い練習する。 ・三味線と囃子に分かれて練習する。 ・グループごとに合わせる練習をする。 ○グループごとに発表する。 ○歌舞伎「勧進帳」の＜寄席の合方＞の映像を鑑賞する。	・＜寄せの合方＞がどのような構成になっているかを映像から理解できるようにする。 ・口三味線・リズム、旋律、奏法などを理解して練習する ・囃子・リズム、かけ声などを理解して練習する。 ・口三味線と囃子のパートごとに分かれて練習する。 ・グループごとに合わせる練習をする。 ・できたところまでを発表し、聴く側は長唄の器楽的な音楽のつくりを聴き取る。 ◇（関）自分のできたところまでを仲間との合奏を楽しみながら演奏することができる。【観察】 ◇（鑑）口三味線と囃子の唱歌での演奏を聴くとき、長唄の器楽的な音づかいや音の重なりを理解して聴くことができる。【観察・ワークシート】
--	---	---

【仮説1手立て③の考察】

- ・1年次に三味線の演奏を体験したことがあったので、三味線の唱歌を歌っている時に音色のイメージを持つことができ、囃子の唱歌も自然に受け入れて取り組むことができた。
- ・口三味線や唱歌の体験により、歌舞伎の音楽に親しみを感じながら、その特徴を理解して鑑賞することができた。
- ・今回は先に「勧進帳」の全体を鑑賞してから体験活動を行ったが、先に体験してから全体を鑑賞した方が効果的かどうかは、検討の余地がある。

【仮説1手立て④】大鼓・小鼓の唱歌と打楽器 授業実践

四街道市立四街道中学校 指導者 石井幸子

- 1 題材名 日本伝統芸能に親しもう〔2時間扱い〕
教材名 歌舞伎「勧進帳」(鑑賞)
- 2 題材の目標
 - ・小鼓と大鼓のリズムの表現活動に進んで取り組み、歌舞伎の舞台の進行と音楽との関わりに興味を持って鑑賞することができる。
- 3 指導と評価の計画(2時間扱い)

時間	◎ねらい ・学習活動	○学習内容 〔共通事項〕	・教師の働きかけ ◇評価規準 【評価方法】
1	◎小鼓と大鼓のリズムを打楽器で表現することで、囃子の特徴を感じとり、歌舞伎の音楽に対して興味・関心を高めることができる。		
本時 (1/	○歌舞伎に使われる主な楽器について理解する。 ・LDを視聴し、囃子の楽器の特徴をワークシートに記入する。		・ワークシートへの記入はメモ程度にさせて集中して視聴させる。

2)	○唱歌やかけ声の役割を感じとりながら小鼓と大鼓のリズムのかけ合いに興味を持つ。〔リズム、速度〕 ・小鼓と大鼓のリズムを唱歌し、グループやペアで打楽器を用いて演奏する。〔拍、間〕	・唱歌の意味を感じさせるよう、できるだけ唱歌を歌いながら行わせる。 ◇（関）鼓のリズム打ちをする活動に興味を持ち、進んで表現しようとしている。 【授業中の観察・発表】
2	◎「勸進帳」の内容を理解し、音楽と舞台との関わりを捉えながら鑑賞する。 ○歌舞伎の成り立ちについて学習し、「勸進帳」の内容を理解する。 ・あらすじを確認しながら「勸進帳」を視聴する。 ○舞台の進行における囃子と長唄の音楽の効果を速度、旋律、強弱、間などから感じとる。 ・歌舞伎を鑑賞した感想をワークシートにまとめる。	・ツケの役割や「傾く」演技の様子にも気づかせる。 ◇（関）歌舞伎の舞台と音楽との関わりに興味を持ち、長唄や囃子の特徴を感じとって聴こうとしている。 【授業中の発言・ワークシートの記述】 ◇（鑑）「勸進帳」の内容を理解し、音楽の働きに興味を持ち、音楽と舞台との関わりを捉えながら鑑賞している。 【授業中の発言・ワークシートの記述】

〔仮説1手立て④の考察〕

- ・ウッドブロックやボンゴ、テンブルブロックなどの打楽器を2人に1個ぐらい使用することで器楽の楽しさも感じながら、鼓のリズムやかけ声、唱歌を体験することができた。体験後に歌舞伎の音楽を鑑賞するときは自然に鼓のリズムやかけ声に耳が傾き、日本の伝統的な音楽を身近に感じさせることができた。
- ・本物の締太鼓や三味線を準備して音を聴かせることで、和楽器を用いた音楽を学習する雰囲気を作ることができたが、できれば、本物の鼓にも触れさせたい。
- ・楽器別の紹介DVDの鑑賞では説明的なものより、音色の特徴を感じとらせることが大切で、音色を擬音語で表すこと等で唱歌の成り立ちにも気づかせることにつながる。
- ・唱歌を行いながら楽器をたたくことが難しいと感じる生徒も多かったので、練習にある程度の時間の確保が必要である。

〔仮説2手立て①〕小中学校鑑賞教材系統図→次ページ

〔仮説2手立て①の考察〕

鑑賞に関する系統図の作成では、指導内容や共通事項を中心にするのか、鑑賞教材を中心にするのかを検討した結果、鑑賞教材を軸に指導のねらいを付記することにした。これにより、小中学校で教科書で扱われている鑑賞教材やその関連性を教師が互いに理解することができた。今後は小中学校9年間の系統性を考えながら、年間計画の中での扱い方を検討していきたい。

〔仮説2手立て②〕「勸進帳」についての小中学校教材の関連性

勸進帳の授業への有効な働きかけを行うための指導系統表

	楽器の音色	歌 唄	音楽と舞台との関わり
4 年	④ 「さくら変奏曲」 * 箏の音色 * 旋律の変化 ⑤ 「ソーラン節」 * 和太鼓・締太鼓の音色（合奏）	④ 「ソーラン節」 * 民謡の声の出し方	④ 「サウンド・オブ・ミュージック」 * ミュージカル * 役柄、場面による唱表現のちがひ ⑤ 歌劇「魔笛」 * 場面と音楽の特徴
5 年	④ 「越後獅子」 * 篠笛のつくりと音色	④ 「こきりこ節」 * 民謡の声の出し方 ⑤ 「会津磐梯山」他 * 声の出し方 * 音階やふしまわしの特徴 ⑥ 長唄「越後獅子」 * 長唄の声の出し方 * ふしまわしの特徴	
6 年		⑤ 「越天楽今様」 * 声の出し方 * 旋律の特徴や拍の揺れ	
中 1	④ 「六段の調」 * 箏の表現 * 音階や速度の変化		
中 2	④ 雅楽 * 管弦（竜笛、篳篥、笙、楽箏、楽琵琶、鉦鼓、釣太鼓、羯鼓）	④ 歌舞伎「勸進帳」 * 歌舞伎の音楽の特徴 * 音楽と舞台の関わり	
中 3	④ 能「羽衣」 * 謡、囃子（太鼓、大鼓、小鼓、笛） ⑤ 文楽「義経千本桜」 * 太夫、三味線		④ 「アイーダ」 * 各登場人物やオーケストラの表現 * 音楽と他の芸術との関わり

【仮説2手立て②】小学校の実践例

- 1 題材名 日本のリズム
教材名 おはやしのリズムやせんりつで遊ぼう
ソーランぶし
- 2 題材の目標
 - ・我が国の音楽のリズムや旋律に親しみ、それらをもとに自分たちの表現を工夫する。
 - ・日本の音楽に親しみ、そのリズムや楽器の特徴を感じ取るとともに、良さに気づく。
- 3 指導と評価の計画（3時間扱い）

時間	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動 【共通事項】	・教師の働きかけ ◇評価規準 【評価方法】
第一次	◎我が国の音楽のリズムや旋律に親しみ、それらをもとに自分たちの表現を工夫する。	
1	○おまつりの音楽を聴き、お囃子のリズムや楽器の音色に親しむ。 ・お囃子に使われている楽器のリズムや音色を感じ取りながら聴く。 ・使われている楽器について写真や資料を見て理解し、演奏するまねをしながら聴く。 ○お囃子の太鼓のリズムを工夫して楽しむ。 ・教科書にあるリズムをそれぞれ唱え、手拍子や机を打つなどして練習する。 ・締太鼓、大太鼓の名前や打ち方を理解して、それぞれのリズムを練習する。 ・大太鼓の①と②のリズムを自由に組み合わせ、各自練習する。 ・締太鼓のリズムにのって、大太鼓の①と②のリズムを合わせて楽しむ。 ○お囃子の旋律を工夫する。 ・音階を表した教科書の図を参考にしながら、リコーダーで即興的に旋律づくりをする。 ・お囃子の旋律と太鼓のリズムを組み合わせて楽しむ。	・教科書の見開きを利用して、地域に伝わる祭りについて話し合う。 ・演奏している資料や、実物を提示して意欲を高める。 ・太鼓のリズムを唱歌で唱えてリズムをとらえさせる。 ・それぞれの太鼓の音色や響きの違いを意識させる。 ・全員が両方の太鼓を練習できるよう配慮する。 ◇（創）和太鼓のリズムや音色の特徴を感じ取り、それらを生かしながら音の響きやその組み合わせを工夫し、どのように音楽をつくるかについて発想を持っている。【練習時や演奏中の様子の観察】 ・音階の音は「ミソラシレ」であることを確認するとともに、終始音がラやミになるようにする。 ・何人かの旋律を太鼓のリズムに合わせて皆でリコーダーで演奏して楽しむ。
2 ～ 3	○「ソーランぶし」をかけ声を入れて歌う。 ・範唱を聴き、歌の旋律や曲想をとらえる。 ・「ソーランぶし」について簡単に理解する。 ・範唱に合わせ、かけ声を入れて歌詞	・「ソーランぶし」が北海道民謡であることなどを簡単に説明する。 ・リズムにのって体を動かしながら歌うようにする。 ◇（創）「ソーランぶし」のリズムや歌い方の特徴を生かした表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願いを持って

唱する。 ・歌い方を工夫し、リズムにのって楽しく歌う。 ○前奏の部分を入れて歌う。 ・リコーダーで前奏の部分をしゅうする。 ・かけ声を入れて前奏を練習する。 ・前奏を入れて楽しく歌い合わせる。 ○和太鼓のリズムにのって「ソーランぶし」を歌い合わせる。 ・前時に練習したリズムに合わせて、歌い合わせて楽しむ。	いる。【歌い方や体の動きの観察】 ・大太鼓と締太鼓を交替で行い、全員が両方をうてるように配慮する。 ・太鼓のリズムが歌と合うように音量や打ち方に注意していく。 ◇（関）友達と楽しく歌唱表現やリズム表現する学習に進んで取り組もうとしている。【演奏の様子や表情・体の動きの観察】
--	--

【仮説2手立て②についての考察】

日本を代表する伝統芸能「歌舞伎」について、長唄や楽器を主に考えると小中学校での日本民謡の発声やお囃子が関連してくること、舞台芸術という点でとらえるとミュージカルやオペラなどが関わってくること、それが小学校や中学校の何年生で扱われるか、が系統図の作成で理解できた。

また、「ソーラン節」についての小学校の実践を知ること、小学校での鑑賞や表現活動の経験が、中学校での学習に生かされていることを実感した。

7 成果（○）と課題（●）

【仮説1について】

○普段、慣れ親しんでいるわけではない日本の伝統音楽に興味関心を持ち、特徴を感じ取りながら深く味わわせるには、「体験する」という活動を取り入れることは、非常に効果的であったと考える。生徒は、自分が実際に表現しようとした唄やリズムが、プロの演奏家によって表現されているのを聴いたり、観たりする時に、その部分の音や特徴が浮き彫りになり、印象深く耳に残ったり、表現の仕方の違いに気づいたりして、より深く音楽を味わうことができていた。ワークシートの感想からも「もっと観てみたい、聴いてみたい。」という思いを持つ生徒が増えていることが見てとれる。

●課題は、まず私たち教師自身が日本の伝統音楽への理解を深め、その魅力を深く味わう必要性があるということであろう。生徒に魅力を伝えるには長唄の発声についての理解、歌舞伎の世界についての理解等を深めることが大切である。今回は歌舞伎についての理解を私たち教師も、以前よりも深めることができたが、さらに能や文楽について、まず自らが親しんでいくことが大切であると感じた。

【仮説2について】

○小中学校の音楽科教師が合同で鑑賞教材のねらいや関連性を話し合い、考える中で、互いの校種で行っている指導についてねらいの相違点や共通理解を持つことができた。特に中学校区別に鑑賞のワークシートを持ち寄り、実態についての話し合いを行ったことで、小学校の学習が中学校で生かされていることや、同じ教材であっても、中学校ではねらいが発展的になっていることなどが確認できた。

●教科書で扱っている鑑賞教材について系統図を作成したが、実際に年間計画の中でどのように取り上げているかは、学校によって違いがある。できれば中学校区ごとに、共通に取り組む題材や系統立てて学習する教材を確認したり、関連性を意識して、ワークシートを改善したりすることができるとよい。

資料編

長唄「雨の四季」より

年 組 番 氏名

長唄「雨の四季」を聴いてみて、どんな特徴がありました

①声について

② 酔い方

[illegible]

⑧リズム

④その他

「雨の四季」の「鈴売りの口上」を長唄の特徴をつかんで、ふさわしい唄い方で唄おう。
 こんな特徴をつかんで唄おう♪

長唄の特徴をつかんで唄えましたか？唄ってみてどうでしたか？振り返ってみよう。



長唄「雨の四季」より

【販売りの部分】



書「三の四書」は、陽明學十二字に基き、東洋全史卷十四年を記して撰ばれた。大正時代の文藝書院版「四の四書」をもとにして作られた。江戸の四書を整理しようと結んでいる。如斯くは陽明の著や書を統括している。如く著々な意味で、各書の名を改め入れて改題している。

音楽鑑賞 歌舞伎「勸進帳」

今日のめあて

長唄の特徴を生かして「勸進帳」を唄おう

詞章（歌詞）を読み、意味を確認しよう。



これやこの・・・これこそが、あの世間でいう、

行くも帰るも別れては・・・

都（京都）から東国へ下る（出て行く）人も、
都へ上る（帰って来る）人も、たとえここで別れてしまっても
知るも知らぬも・・・知っている人も知らない人も

逢坂（おうさか）の山かくす・・・

別れては逢い、逢っては別れる、
その名のような逢坂の関所なのだそう

↑百人一首（蟬丸）

長唄の特徴・・・のぼすときに音程が変わる。

グループで練習し、発表し合おう

↓グループで話し合い気をつける点を書き込もう！

氏名	姿勢	音程	太い声を出す	のぼす
	A	A	B	A
	A	B	B	A
自分（自己評価） →	A	A	B	A

まとめ①・・・本日は長唄を唄ってみました、いかがでしたか？感想をまとめよう。

太い声で高い音や低い音を出すのは難しかったです。

地声なので音を合わせるのも難しく、少し歌いづらかったです。

まとめ②・・・最後にもう一度DVDを視聴した感想を書いて下さい。

よくこんな大道具、太い声を出せるなと思いました。

三味線な感じ（ほぼ同じリズム）のくり返しなので入るタイミングなどが
難しいのかなと思いました。

2年 組 番氏名

長唄の授業での感想 (旭中学校)

まとめ①・・・今日は長唄を唄ってみました、いかがでしたか？感想をまとめよう。

リズムが一定じゃないところや、音程や声の出方が、どのうとは違って、

難しかったです。

まとめ②・・・最後にもう一度DVDを視聴した感想を書いて下さい。

CDとは違って、三味線だけでなく、太鼓や笛なども音が入っていて、

リズムがよくわかった。自分が歌った後にもう一度聞くと、音が、しっかり入ってくる。

まとめ①・・・今日は長唄を唄ってみました、いかがでしたか？感想をまとめよう。

声が低いし、長く伸ばすのが難しい、難しかった。

少し歌えるようになるのが楽しい。

まとめ②・・・最後にもう一度DVDを視聴した感想を書いて下さい。

やはり何を言っているのかわからなかった。

色々な楽器が入って、やはり、長唄とマッチしていて、とてもいいなと思った。

訳を見ながら聴くと楽しくできそう。^唄

まとめ・・・今日は長唄を唄ってみました、いかがでしたか？感想をまとめよう。

① 普段の声の出方と全くちがった、

声が出しやすかった、難しかった。

まとめ② 最後にもう一度DVDを視聴した感想

前回より声の出方がうまくなった。うまく歌えた。

テレビの自分が歌ったところだけ、違ってきた。

初めて聞いたときと感じが違った。

思った以上に難しかった。

2/9

発表はみんな上手で驚きました。

息づきのところがうまくできていた...

～DVDを見～

自分も練習したので、聞いてみると
なんとなく身近に感じました。

歌舞伎のことが知らなかった、理解できました！

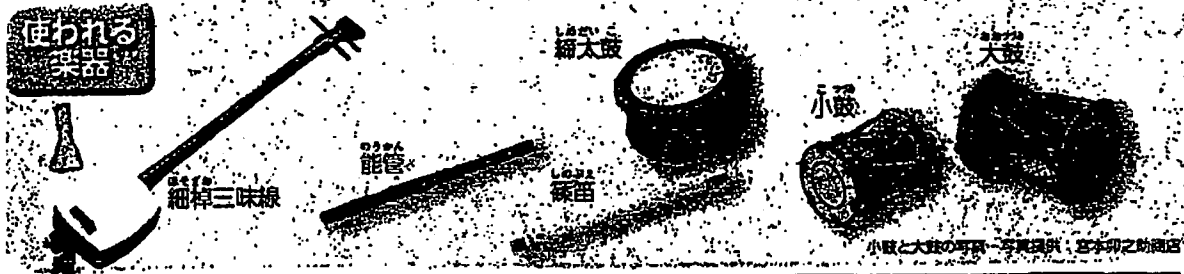
歌舞伎

お囃子を体験しよう

2年 組 番氏名

番氏名

- 1 歌舞伎「勧進帳」に使われる楽器の音色を聴いて、特徴や感想を書きましょう。

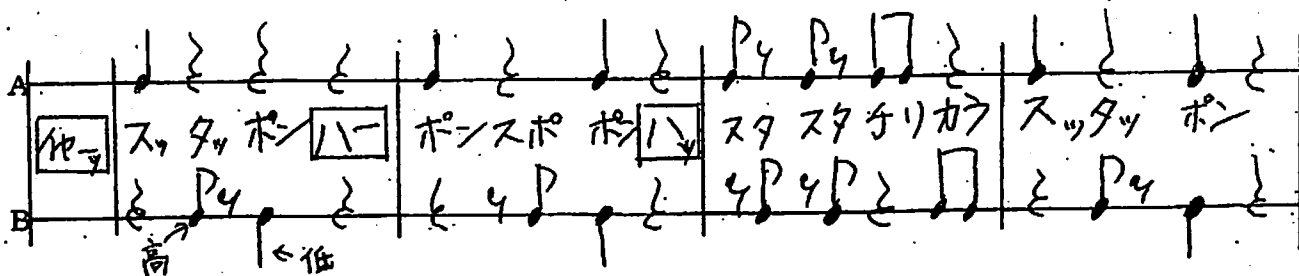


楽器名	特徴や感想
しゃみせん 三味線	とてもめだっていて特徴的な音が出ている
ろうかん 能管	篠笛のような音色だったが、音をわざと割って工夫している
こつこみ 小鼓	「ポンッ」という軽い音でよく響いていく
おおつづみ 大鼓 (おおかわ)	「カッ」というかためな音でかけ声は太かった

*締太鼓と篠笛は「勸進帳」では使われませんが、他の演目で使われることがあります。

2. 打楽器とかけ声で囃子を体験してみよう。
音の高さの違いを生かして、鼓の音色に近いたたき方を工夫しよう。

- A 大鼓 役 高い音を使う
左わきに構えて右手で打つ。
- B 小鼓 役 低めの音（できれば二種類の低めの音）を使う。
左手で持ち、右肩に構えて右手でかけ声とともに打つ。
- かけ声や唱歌（スッ・タッ・ボンなど）は、両パート一緒に行います。



- 3 体験してみた感想を書きましょう。

とても楽しかった。和楽器についてよく知らなかった

けれど、よく分かった。リズムを唱歌にするとまで

分かりやすくな、た。また 歌舞 伎いかいにも

使われているのか調べてみたくなった。

3 体験してみた感想を書きましょう。

音を出すのが難しかった。指でたたくとうまく出た。
意外と声を出す唱歌の方がリズムが取りやすくて
上手くできた。笛などの楽器と違ってにやりたくなった。
篠笛などといふ。音が出たあとの余韻が残ってきれい。

意外と声が出る唱歌の方がリズムが取りやすい

上手くぞう丁。笛などの楽器とらしくにやりたくなった。

篠節などといえう。音が出たあとの余韻が残ってきれい。

3 体験してみた感想を書きましょう。

体験してみたい感情を皆さん笑しよう。
 体馬笑してみてもこのリズムでも素晴らしい
 のに舞台の上にいる人はもっと素晴らしい
 リズムでいっていると思うと少し
 あこがれてしまうと思った

体験してみてもこのリズムでも 莫大しい

①に舞台の上で踊っている人は f_2 と募集し

リス・Aでやっていると少し

おこがれにしようかと決めた

3 体験してみた感想を書きましょう。

思っていたよりもおぼえられて出来た。・一人で出来ても、二人でやると出来
なれたりしてむしろかえった。・唱歌しながら、下くつがむしろかえり
時もあり、言い分がらのほうが出来た時もあった。・せう、本物でも、
たいていおたいてい分かった。・初めてやって見たけど楽しかった。

なれ、たりにてむすかした。・唱歌しながら、たたくのがむすかしい

〜時もあり、言いはげらのほうから出来た時もあった。・ぜひ本物でも、

天にいて、お天に会いたいと思ふ天。初めてやって、お天に会いたいと思ふ天。

* 歌舞伎や長唄についての感想を記入しよう。

口をへんの字にしてしゃべっている
ことなどにも理由があってびっくりした。
弁慶が義経を打うつけるシーンでは後ろでうなづ
いている音楽はうるさい感じで、りんじょうかんが出ているが、
弁慶が義経に宣射るシーンでは青争かな音楽で
雰囲気が出ていたので、主役だけでなく音楽
も重要なんだなと思った。

ことなごにも理由があってびっくりした。

升慶が義経を打ったシーンでは後ろでうろこ

いる音楽はうるさい感じで リンジェウカンが出ていたが、

弁慶が義経に諷刺するシーンでは青争かな音楽で

雰囲気が出ていたので、主役だけでなく音楽

も重要なんだなと思った。

* 歌舞伎や長唄についての感想を記入しよう。

この歌舞伎を見て、セリフは、演歌みたいには
感じない。「ふ〜あ」などの今の劇にはあまりないセリフも
ある。長唄やおひしめ、小鼓や大鼓などの伴奏
と一緒で、ポンポンと2回ならして、さきに音のフキマシ
音楽は、謝りにするときは、ゆ〜けむき音楽かBGMに
なっている。この現代の音楽と同じには、と思っ
た。また飛田のうしろに、

巻子で、「F〜あ」などの今の劇にはあまリないセルビ

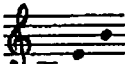
あて長唄やふしおしは小鼓や大鼓はひしき梁め

とこので、 T_1, T_2 と 2回作らして、 α と β の方がきまらへ。

音楽は謝に似る生活の中、LPの音楽はBGMに

「ハ、エ、ミ、ソ」の現代の音楽と同じだと思われ

$T=0$ まで飛ぶ六才も $\frac{1}{2} \rho \cdot V^2$ に

本調子 

糸組番

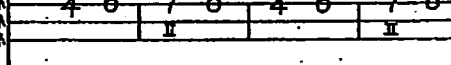
代名:

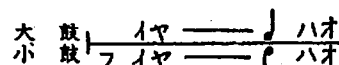
『勸進帳』より

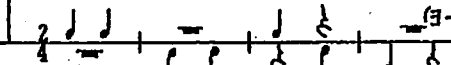
「寄せの合方」

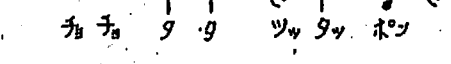
A

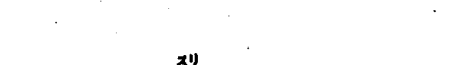
三味線 

三味線 

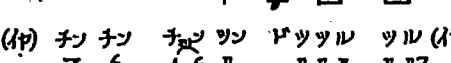
大鼓 

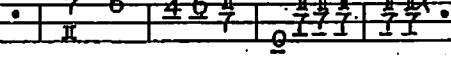
小鼓 

イヤ 

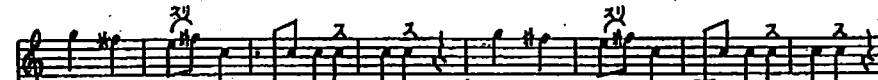
ハオ 

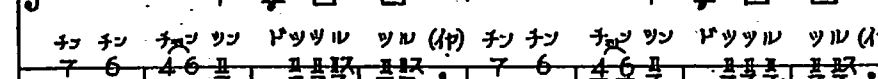
チン 

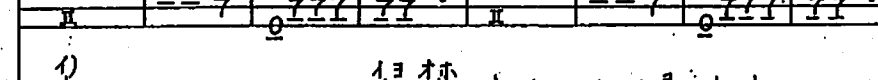
ツッ 

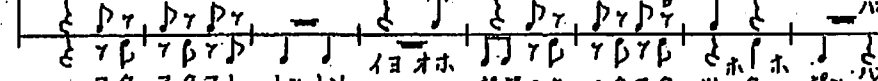
ポン 

(9)

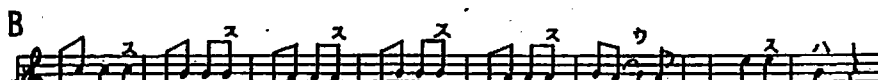
三味線 

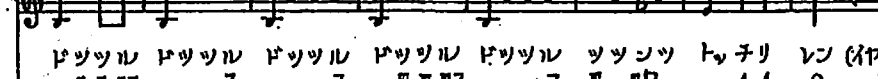
三味線 

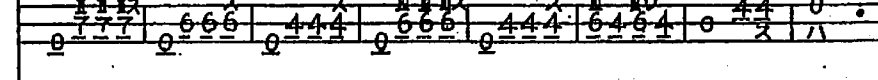
大鼓 

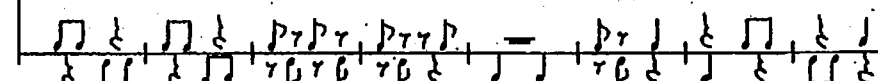
小鼓 

イヤ 

ハオ 

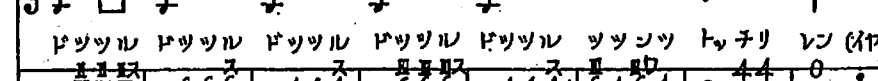
チン 

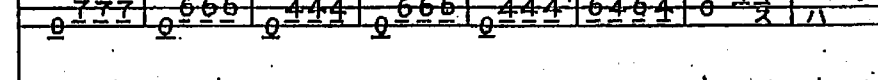
ツッ 

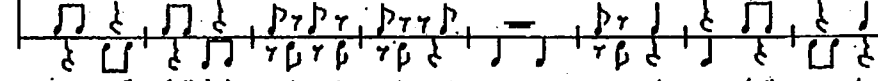
ポン 

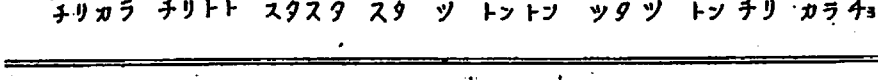
B

三味線 

三味線 

大鼓 

小鼓 

イヤ 

ハオ 

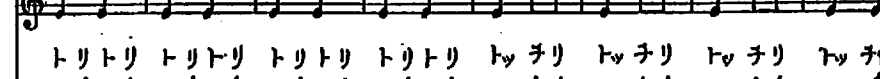
チン

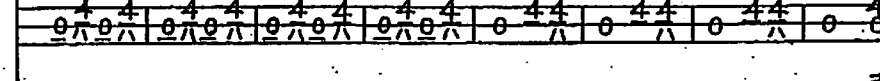
ツッ

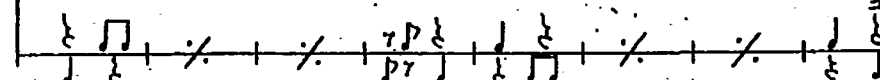
ポン

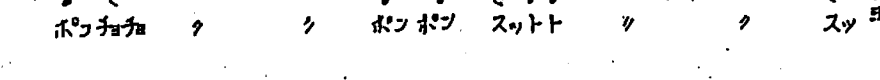
C

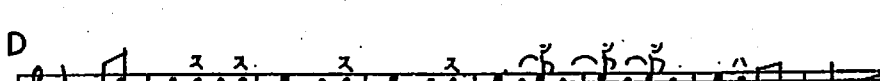
三味線 

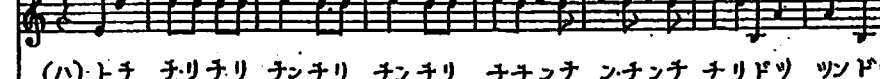
三味線 

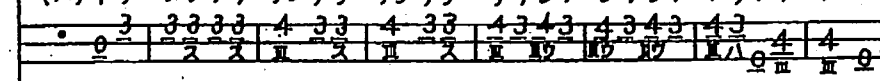
大鼓 

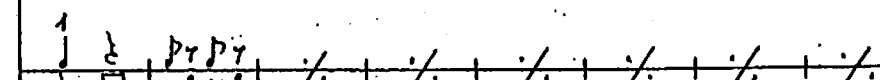
小鼓 

イヤ 

ハオ 

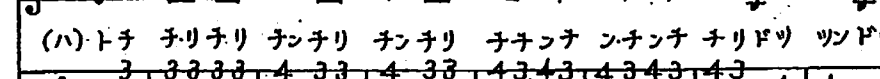
チン 

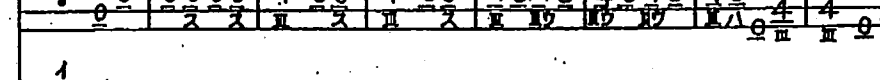
ツッ 

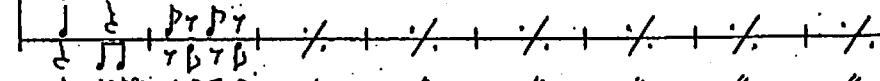
ポン 

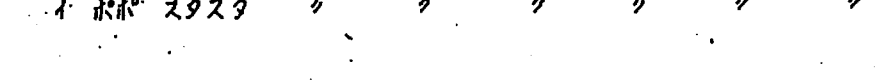
D

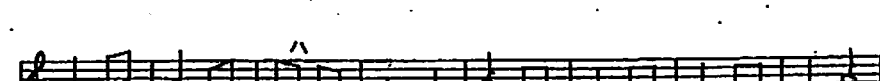
三味線 

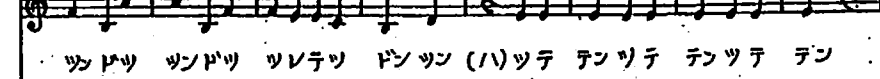
三味線 

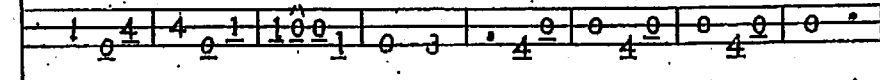
大鼓 

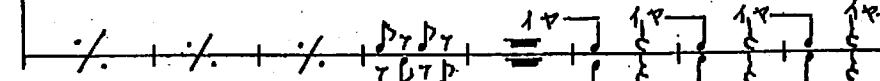
小鼓 

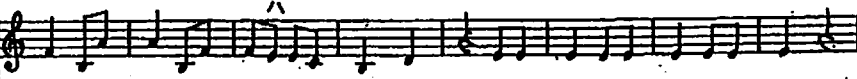
イヤ 

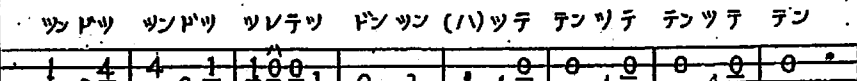
ハオ 

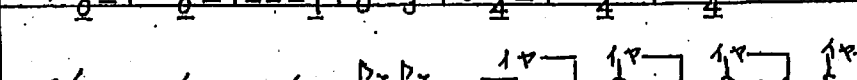
チン 

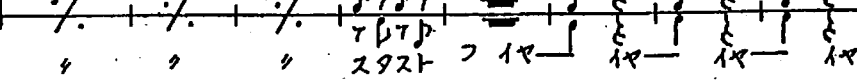
ツッ 

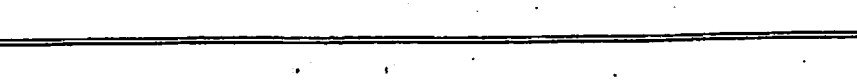
ポン 

三味線 

三味線 

大鼓 

小鼓 

イヤ 

ハオ 

チン

ツッ

ポン

「春の海」

作曲者 宮城道雄

この曲はA—B—Aの形式になっています。

Aの部分でメロディを演奏している楽器は（ 尺八 ）です。
 伴奏を演奏している楽器は（ こと ）です。

気が付いたこと・思ったこと・感じたこと・考えたことなどを書きましょう。

最初はゆっくりでことのスピードが速かった。

おちついている感じがした。

いきなり高い音やだんだん音が大きくなる所で何か近づいてくるような感じがした。

尺八がひくい音でえん奏すると全体がおちついた感じになる。と中で曲の感じがはやくなつて、しぎな感じになった。尺八は高い音を出す所が多い。

リズムが速くなると楽しい感じがする。

ゆっくりになつてからはやくなるとおちつかない感じがする。

何度もゆっくりやはいをくりかえしている。

尺八とことが高い音になるとはく力がある。

ことが同時に2つの音を出すと、音量が増えたように聞こえる。尺八の音をつながっていてなめらかに聞こえて、リコーダーみたいに聞こえた。

ことは音が1つ1つがはなれていてリズム

（テンポ）がよくて明るい感じが伝わってきた。

音がゆっくりな所は静かな海。音がはやかったり、音が高い所ははげしくゆれている海の波が想像できた。

右へ→

ことはこまかいリズムで尺八はゆっくり。
 尺八は高い音でスタ、カーンた。からはげしい感じ
 と中でことのリズムが変わる。
 はやいとあせっている感じがする。
 ぎやくにゆっくりとおちついて安んじている感じがする
 最後の方になると尺八の音が少なくなる
 尺八とことで尺八が最初でことが同じ音をくり返して
 いる（高い音と低い音で）

日本の伝統的な楽器

～小学校～

「春の海」 宮城道雄 作曲

★曲について

- ・第1尺ハの二重奏曲。
- ・2つの楽器が対等的な位置関係。
- A-B-Aの形式 (緩-急-緩)
- A 春のどかや海辺や ゆるやかな波の動き、かめの声などを表した ゆるやかな音楽
- B 陽気な和歌と春霞のどかやを巧みに 巧みで急激な音楽

～聴く時のポイント

- ・第1尺ハの音色を味わおう。
- ・A-B-Aの曲想の変化をきこう。
- ② 2つの楽器の対話しじがからみ合えてくります 日本的な音楽の美しさを味わおう。

感想

春の海は波があつて、第1尺ハの音が春の香りをほこいて、
きこえてくる感じが、日本の音楽の奥深さを感じた。
また、2つの楽器の対話しじが、日本の音楽の奥深さを感じた。
また、2つの楽器の対話しじが、日本の音楽の奥深さを感じた。
また、2つの楽器の対話しじが、日本の音楽の奥深さを感じた。

感想

何回聞いてもあまな曲だと思ひました。尺ハの強弱が、表現が増えよかったです。Bのところでは、全体的にテンポが速くなり、よりかきこえよかったです。Aのところは、何度か聞いて、テンポが速いことを知ることができてよかったです。ここで表現し、強い強弱を尺ハで表しています。相対的な楽器と、とても開きやすかったです。あつて、いかんせん曲自体に、テンポが速いので、聞いてみると、きこえよかったです。思ひました。

少しだけ、あの曲で、テンポが速い、きこえよかったです。

感想

これは、短スレーズが多くて、尺ハは、長スレーズが多い。聞いかけ、みると、ことと尺ハは、強弱が出しやすいため、表現がゆたか。また、始めは静けさから始まって、途中から春を感じられるようなリズムとメロディだ。この音の余音が、いっそう尺ハを極力たせているように感じた。曲の浮きすぎみがほげし、男の子のようなセムリツを吹いて、聞いているのに、全然違ふ。聞か

日本の伝統的な楽器
～小学校～

春の海

6年



かみしょうのまひめ
①いちばん強く感じたことや心に残ったことを書く。

寒かった冬も終わって、春になって、あたたかくなると、人々がよるこんでいるかのように高い音でした(B)。②海の波が静かな様子を表しているようにした(A)。この曲を作曲した人は、すごいなあと感じました。

かみしょうのまひめ
①いちばん強く感じたことや心に残ったことを書く。

②ことをはじく音と、尺八の優しい音色がリズムにのりながら音が重なり合うときが良く、一番印象に残った。
・や、やはり最初のリズムと、CMかなんかで聞いたことある。

5年

曲名	聞いたことや感じたこと	日付
長唄越後獅子	しの笛が思った以上に音が高く、サビートにのりながらお祭りとかで聞いたことあるような音で歌と笛と三味線がいい音色を奏でていてとてもきれいだ。しの笛が歌を支えている感じが良かった。	2月15日
作曲家	九世 杵屋六左衛門	
主な楽器・演奏の形	しの笛	

春の海

6年 4組 氏名

1, 作曲者 宮城 道雄 (1894 ~ 1956)

2, 尺八について
① 何でできていますか。竹
② 穴の数 前4個 後1個 計5個
③ どのような音色でしょう。高くリコーダーみたいな音色

3, ことについて
① 何でできていますか。木の皮(とうり・うさぎの皮)
② げんの本数は何本でしょう。13本
③ げんをささえるものを(柱)といいます。
④ げんをはじくものを(つめ)といいます
⑤ どのような音色でしょう。気持ちがおちつくきれいな音色

4, 曲の持ちようについて答えましょう
☆この曲は大きく分けると(3)つの部分に分かれています。それぞれにどんな持ちようがありますか。

キーワード・速度・掛け合い

A・はじめの部分
速度がはやくなるとリズムがはやくない
速度がおそくなるとリズムがゆっくりになる
細く
B・中の部分
ことが問いかけは尺八が答えているところであれ
は尺八が問いかけて、歌が答えているところもある。
A・終わりの部分
はじめの部分にもどった。同じ。 A-B-A形式

5, 冬休み中にこの曲をきいたおおよその回数を書きましょう。

日本の伝統的な楽器
～小唄～

音楽鑑賞 箏曲「六段の調」 作曲家(八橋 権松)

本日のめあて

楽曲全体の構成を理解して、箏(そう・こと)の表現を味わって聴こう。
箏の音色(ねいろ・おんしょく)や使われている音階、速度の変化などを聴き取ろう。

あなたはこれまでに「お琴」を弾いたことが ☒ ある ☐ ない

箏を目の前で見て ☒ きれい ☐ 、上の方にある布がきれい。
思ったこと ☒ 木目がかっこいい ☐



教科書P. 58, 59 見ながら「さくらさくら」の始めの部分を弾いてみましょう。

弾いた感想

つめでひいた方が音が響いてきれいで楽しかった。
山田流の方がつめでの音もきいてみたいと思った。

箏(そう・こと)には右手で弾くだけでなく、左手を用いて音の高さや余韻を変化させる奏法があります。その音色や余韻を実際に弾いて味わってみましょう。

奏法	左手でどのようにするか	記号	実際に弾いてみて感じ取ったことをまとめよう
引き色 	左手で弦をつまんで柱(じ)の方に引き、音高をわずかに(下)げること。	ヒ	あまり変わらない気がした。でも少し変わっていて面白かった。
後押し 	右手で弾いた後に、左手で弦を押して余韻の音高を(上)げること(弾いてから押す)。	オ	ひゅーんというかんじがよかった。
押し手 	左手で弦を押して、音高を(上)げること(押してから弾く)。	オ	∠ という感じ。

(山田)流

(生田)流

おど座ろ

声に近い音

楽譜漢字

おどめに座ろ
現代的な音

箏曲「六段の調」を鑑賞して、段ごと、または全体を通して感じ取ったことや気づいたことなどについてまとめよう。

段	速度の変化	感じ取ったことや気づいたことなど
初段	ゆ、くり	一フ一フの音がきれいで"ひひ"ひひひ全体を通して
一段		たくさん奏法が
二段	少し速い	つめで、弦をこするの音が"おこ"い
三段	より速い	はしむ"ひひひ"い
四段	速め	低い音がめ"つ
五段	速い	中はんは高い音が"ひひ"つ
六段	速い	最初がはやくて、最後はゆ、くり

伝えよう!!

箏曲「六段の調」を鑑賞して、魅力的だと思ったことをみんなに紹介する文章を書いてみよう。

この曲は、初段から大段と六つに分かれており、速さの変化が面白いです。また、「引き色」や「後押し」、「押し手」その他にも、つめでこする音も、かっこいい奏法がたくさんあり、聞きごたえがあります。高い音が使われているたり、低い音が使われているたりして、聞いていて楽しいです。

1年2組 番氏名

日本の伝統的な楽器～中琴～

音楽鑑賞 箏曲「六段の調」

作曲家(ハ橋 検校)



箏曲「六段の調」を鑑賞して、段ごと、または全体を通して感じ取ったことや気づいたことなどについてまとめよう。

本日のめあて

楽曲全体の構成を理解して、箏(そう・こと)の表現を味わって聴こう。
箏の音色(ねいろ・おんしよく)や使われている音階、速度の変化などを聴き取ろう。

あなたはこれまでに「お琴」を弾いたことが ある ない

箏を目の前で見て
思ったこと

大きい
長い



教科書P. 58, 59 見ながら「さくらさくら」の始めの部分を弾いてみましょう。

弾いた感想

・親指がいたかった。(つねはめてなかったから)
・数字の楽譜だったから、難しかった。

最後速度が速くなった。

口ずさ、全然わかんない!

段	速度の変化	感じ取ったことや気づいたことなど
初段	緩やか	ゆっくり
一段		
二段	初段と比べて速くなった。	後押しの余韻の音がひびいてきれいだった。やかくなる
三段	二段より速くなった。	カラリンがきれいだった。いんじんはやくなる
四段	三段と比べて速くなった。	半端にひいてる所がきれいだった。いんじんはやくなる
五段	四段と比べて速くなった。	音高が上がる所がきれいだった。いんじんはやくなる
六段	緩まった。	はやかったけど、けい最後は緩まった。

全体を通して
最初は、緩やかで
段ごとにしだいに
はやくなって、最後
の部分は速度が、
緩まった。

箏(そう・こと)には右手で弾くだけでなく、左手を用いて音の高さや余韻を変化させる奏法があります。その音色や余韻を実際に弾いて味わってみましょう。

奏法	左手でどのようにするか	記号	実際に弾いてみて感じ取ったことをまとめよう
引き色 五	左手で弦をつまんで柱(じ)の方に引き、音高をわずかに(下)げること。	ヒ	弦をつまんでひくのはかんかくをうかむまでかむすかしかった。
後押し 六	右手で弾いた後に、左手で弦を押して余韻の音高を(上)げること(弾いてから押す)。	オ	弦をおすのは、引き色に比べてかんたんだった。
押し手 ハ	左手で弦を押して、音高を(上)げること(押してから弾く)。	オ	後押しと似てて、かんかくをすぐつかぬた。

(山田)流

・まずぐ座る。
・音に近い



(生田)流

・楽譜横字
・かなめ座る
・器楽的

恒えてみよう!!

箏曲「六段の調」を鑑賞して、魅力的だと思ったことをみんなに紹介する文章を書いてみよう。

「六段の調」は、ハ橋 検校 が作曲した曲です。
全部で六つの段に分かれていて、初段を除く各段は
同じ拍数からできています。私は、実際に琴を弾
いた時、引き色や押し手は上手くできなかったけど、この曲にもその
2つが入っており、とてもきれいな音色を奏でていました。
緩やかな速さではじまり、次だいに速度がはやり最後は
緩めて終わります。速度の変化や全体の構成に
耳をかたむけて聴いてみて下さい。

1年2組 番氏名

日本の伝統的音楽 中学校へ

交響曲第5番

「運命」

第1楽章から（ベートーベン作曲）

めあて 演奏による表現のちがいをきき取ろう

～同じ曲でも、指揮や演奏の仕方によって感じが変わるね。

速度や強弱など、ちがいの理由を見つけよう。

	感じたこと・気づいたこと
ヘルフ・ベオルン・ト・ヤ・ン	少し速かったです。最初から最後まで、 ①低音の音がよく聞こえました。→はかさが 速かったです。
お小ざ澤わせ伍いじ	速い→初→後 カラヤンさんに比べて、落ちついていま した。→日本人にしかない落ちつきを (タタリ) だしたかったのかな？と思います。
カール・ベーム	最初の17小節が少しゆっくりでした。 少しはすみがあるのはしが多いです。 終わりに近づく→速くなっていた感じが します。→最後のしめどまりとぎせたいのか な？

と思いました。

感想

バーンスタイン

強弱がとてもはっきりしていました。

バイオリンの音色も、はっきりと聞こえ
ました。

交響曲第5番ハ短調「運命」

6年 組 番 氏名

1. 曲名

交響曲第5番 ハ短調「運命」

2. 作曲者

ベートーベン

3. いろいろな「運命」を、聴き比べてみましょう。

(1) 指揮者 カール・ベーム

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

あまり、激しくないように聞こえる

(2) 指揮者 カルロス・クライバー

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

最初音がすごく激しい

(3) 指揮者 ヴィルヘルム・フルトヴェングラー

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

17小節、長く、ゆたりに聞こえる

3. 同じ楽譜を見て演奏している、様々な演奏を聴いて、どう思いましたか。

指揮によって、激しかったり、ゆたりに聞こえたりする。

4. 1楽章を通して聞いてみての感想を書きましょう。

- ・ ベートーベンは耳の病気に悩まされたから、激しい→おだやかなを
自分の運命を作曲したのかな？と思います。
- ・ 短調→長調をくり返している

ベートーベンは28歳の頃から、音楽家として一番大切な耳の病気に悩まされてしまい、大変苦しみました。その苦しみをのりこえて、すばらしい作品をつくりました。

「運命」は、1808年に作曲されました。この曲は、「タタタターン」という激しいせんりつで始まります。このせんりつが、第1楽章だけで280回近くも使われます。ベートーベンは、このせんりつのことを「運命はこのように戸をたたく」と説明した、といわれています。

この交響曲全体で、運命と戦う人間を力強く表現しています。

交響曲第5番ハ短調 ～小学校～

いきなり音がしつたりするのは、9時の
なにかがう。

6年 鑑賞 交響曲第5番「運命」 第1楽章

1. 作曲者・・・ベートーベン

作曲者について知っていること
ドイツの作曲家。耳の聞こえなくなるまで、
（耳）

2. 曲を聴いて比べ、違いをまとめよう。

思ったこと	曲の速さ	音の伸びし方 曲の間	このオーケストラの特徴
1曲目	速い	間が少ない。	はく力がとてもある。 はずんでいる。
2曲目	1曲目より おそい	間が多い。 長い	強弱があり、曲の感じ がかわる。
3曲目	速い	間が少ない！ (1曲目と同じ)	はく力があり、1曲目と同じ 感じ？フィナーレと感ずる

3. 指揮者になって運命を振ってみよう

交響曲第5番「運命」1楽章は（2）拍子です。

曲に合わせて気持ちよく指揮ができれば（ ）に○を書きましょう。（Q）

4. ベートーベンの運命を聞き比べて感じたことや交響曲の良さなど気付いたこと、
ききましょう。

いきなり音がしつたりするのは、9時の
なにかがう。
指揮者は身振り、演奏者はのびのびと
演奏している。とても大切な曲と感ずる。
私も身振り、演奏者の演奏に感ずる。
指揮者の演奏は、とても大切な曲と感ずる。
私も身振り、演奏者の演奏に感ずる。

指揮者の演奏は、とても大切な曲と感ずる。
私も身振り、演奏者の演奏に感ずる。



③ この曲をきいて、感じたことをノートにまとめましょう。

かんしょうノート

① クラヤン
② ベーム
③ ショリーニ

きいた日： 6月21日

曲名	交響曲第5番「運命」第1楽章から		
作曲者	ベートーベン	演奏の形	オーケストラ
1番好きな演奏	（③）番目の演奏		
感じたこと	① とてもはく力があって強いイメージだ。 ② ①よりもやさしい感じだ。音の伸びが長くなり、 ③ やさしい感じになり、強い感じになっていたり していた。		

おどろき、やさしい感じが、とてもよかった。
多めに伸びたりしていた。

交響曲第5番「運命」
～小学校～

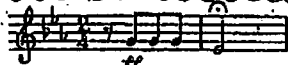
鑑賞 ベートーベン

交響曲第5番ハ短調 作品67

2年 1組 番氏名

- 1 第1楽章の二つの主題を聴き、それぞれの特徴を書いてみよう。

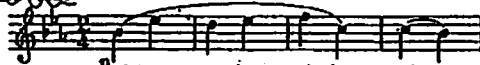
第1主題 ハ短調 Allegro con brio (速く、生き生きと)



クラリネット、弦合奏

(怖い感じ、音が低い、重い感じ)

第2主題 第1ヴァイオリン



p dolce (やわらかに)

(華やかな感じ、なめらかに流れる感じ)

- 2 ①ソナタ形式:

A(提示)部 対照的な二つの主題が提示される

B(展開)部 主題が発展していく

A'(再現)部 主題が再び現れる

②作曲者の(ベートーヴェン)は古典派からロマン派への橋渡しの役割を果たした。彼は(耳)の病に悩まされたが、それを乗り越えて作曲を続けた。

- 3 1楽章を聴いた感想を書こう。

・管弦楽の響きを味わおう ・主題の繰り返しや変化を聴き取ろう
・作曲者の思いを感じ取ろう

弦楽器は低い音や高い音、はくりくのある音や弱い音、
なめらかな音や生き生きとしたたくさんの音がでて、また
響きもすごいなと思いました。主題の繰り返しは1回1回
で音の強いところや響き方が違って、受け取る印象
も違って、同じリズムなのはすごいと思いました。
作曲者は、運命を強く、また幸せな感じを表現した
かったのかなと思いました。



ブルタバ → 交響詩

①

②

鑑賞 ベートーベン

交響曲第5番ハ短調 作品67

「運命」

2年 3組 7番氏名

- 1 第1楽章の二つの主題を聴き、それぞれの特徴を書いてみよう。

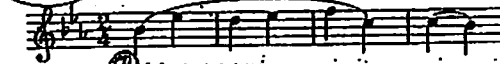
第1主題 ハ短調 Allegro con brio (速く、生き生きと)



クラリネット、弦合奏

(暗い、迫力がある、強い、勢いがある、響きがある) 激しい、楽器

第2主題 第1ヴァイオリン



p dolce (やわらかに)

正原社

(優しい、穏やか、やわらかい、落ち着く、なめらか)

- 2 ①ソナタ形式:

A(提示)部 対照的な二つの主題が提示される

B(展開)部 主題が発展していく

A'(再現)部 主題が再び現れる

②作曲者の(ベートーヴェン)は古典派からロマン派への橋渡しの役割を果たした。彼は(耳)の病に悩まされたが、それを乗り越えて作曲を続けた。

- 3 1楽章を聴いた感想を書こう。

・管弦楽の響きを味わおう ・主題の繰り返しや変化を聴き取ろう
・作曲者の思いを感じ取ろう

第一主題からは悲しみをすごく感じた。

指揮者それぞれの感じ方で、音楽の雰囲気や変化するというところが
人の感情を表しているようなこの曲にピッタリだなと思った。

弦楽器それぞれの響きや重なり合っているのが、すごく深みのある
響きになんだなと思った。



交響曲第5番ハ短調
～中学校～

鑑賞プリント

組 番 氏名

音楽鑑賞

曲名を知っている人は書いてみよう (運命)
 作曲者を知っている人は書いてみよう (ベートーヴェン)
 この曲は作曲者が何歳頃作曲したと思うか。 (30) 歳
 (35 歳まで生きたと思う)
 この曲は作曲者がどのような心境の時に作曲したと思うか。

運命はあんなにもどろもどろと流れてく (1-2)
 何もかもがわからなくなってきた
 世の中があたしをいかに苦しめるか
 追いつくことが出来ぬ

メモ

思い悩む 困っているとき → クラウドが

①を聴いて

衝撃が走る! (8)
 新たな課題と見えてきた

第1主題

②を聴いて

何か報わける瞬間

何もかもがひたひたに迫ってくる

第2主題

曲名: 交響曲第5番 短調 作品17

作曲者: ベートーヴェン

ソナタ形式 第1 → 第2 → 第1

○今回勉強する曲について記入しましょう。

①題名

②作曲者

③演奏形態



・ア. はイ. つの楽器群に分けられる。

④この楽曲のキーワードとなるリズム



このように楽曲を形成する小さい旋律のことを⑤ という

○⑤のリズムの八分休符の役割について考えてみよう。

自分の考え	他の人の考え

○この楽曲は主題が⑥ つある。その主題の特徴について考えてみよう。

	速度	リズム	旋律	強弱
第1主題	速い . 遅い	重い . 軽い	なめらか・激しい	弱い . 強い
第2主題	速い . 遅い	重い . 軽い	なめらか・激しい	弱い . 強い

交響曲第5番 短調 中学校

2年 組 番氏名

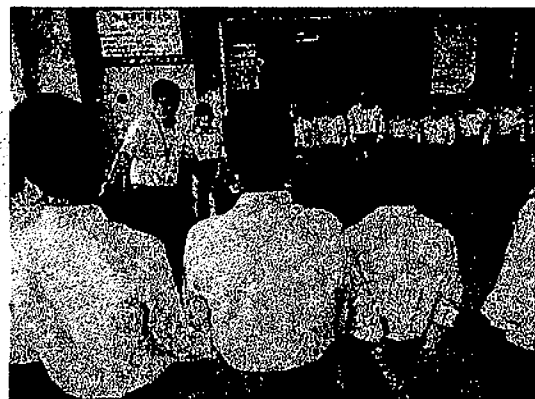
平成29年度 第67次印旛地区教育研究集会
音楽科分科会提案資料

音楽研究部研究主題

音楽の美しさを聴き取ろう 感じ取ろう そして伝え合おう
～一人一人の思いや意図を実現するための授業づくり～

研究副主題

「思いや意図を生かして、よりよい音楽表現を目指す生徒の育成」
～話し合いの形態を工夫して～



第二部会

成田市立西中学校 岩出 剛

1 研究主題

思いや意図を生かして、よりよい音楽表現を目指す生徒の育成
～話し合いの形態を工夫して～

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領とのかかわり

中学校学習指導要領音楽科の目標は「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。」である。

ここでは、目標にある「音楽を愛好する心情」「音楽に対する感性」「豊かな情操」をより深めていくことを大切にしていく。歌詞の内容や音楽の構造と曲想の関わりを理解し『曲ってこのように作られているのだ』という曲の背景を知ること、音楽を愛好する心情を育てることができる。また、楽曲の特質や雰囲気を感じ受けることで、生徒一人一人の「音楽に対する感性」が豊かになる。このような音楽体験を積み重ね、自分が素直に感じた思いや意図を仲間に伝え、受け入れられることで、「豊かな情操」＝「心」が育つと考えた。

次期学習指導要領の改訂では、「何を知っているか」だけではなく、「知っていることを使ってどのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」ということが視点となっている。これまで積み重ねてきた「音楽の知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力や人間性などの情意・態度」等、関わるものを生かした、音楽科としての学び合い（アクティブラーニング）を工夫して設定することも今後の重要な課題と考え、本主題を設定した。

(2) 印旛地区音楽研究部研究主題とのかかわり

本研究では「伝え合う」ことにこだわって指導を行った。自分が感じたことや知識を生かした意見を、伝え合い受け入れることが、一人一人の思いや意図を実現し、よりよい音楽表現につながると考える。中学2～3年の生徒を対象としたことで、小学校6年間＋中学校3年間の学びのまとめになるよう、よりよい音楽表現を目指す生徒を育成していきたい。

(3) 生徒の実態から

本研究を行うにあたり、平成27年度入学生徒の2年生～3年生（E組 男子17名、女子20名～21名）を対象に研究を行った。4校の小学校からの音楽経験や1年時の合唱活動の取り組みの差が見られ、戸惑う場面も見られたが、「歌うこと」が嫌いという生徒や、抵抗感を持つ生徒は少なく、全体的に前向きな合唱活動を行っている。

授業では、誰でも分け隔てなく全体での活動ができる反面、自分の意見に自信が持てず、明確に他へ伝えられないという課題や話し合いから結論を導きにくいという課題がある。

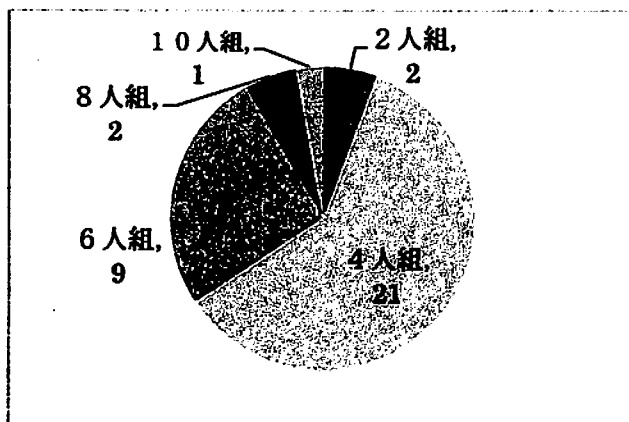
そこで、次のようなアンケートを実施した。

【話し合い活動について】

①話し合い活動で困ることは？

話し合いをまとめることができない。 関係ない話で、うるさくなってしまう。
意見を言っても返ってこないときがある。 時間配分ができない。意見が出ない。
一部の人に片寄りがある。 知識により意見の差が出てしまう。
少人数だとアイデアが浮かばない。 じっくり考えていると終わってしまう。

②話し合い活動がやりやすいと感じる人数は？



2人組……じっくり意見を交わすことができるから。

4人組……まとめやすい。 みんなが考えないとまとめられないから。

普段の会話と同じテンポで話し合いを進められる。

一人一人の意見をじっくり聞くことができる。

6人組……班活動と一緒にだから。 頼りにできる人がいるから。

多すぎず、少なすぎずちょうど良い。

8人組……男女4人ずつだと話しやすい。

共感する人がいるから意見が出しやすい。

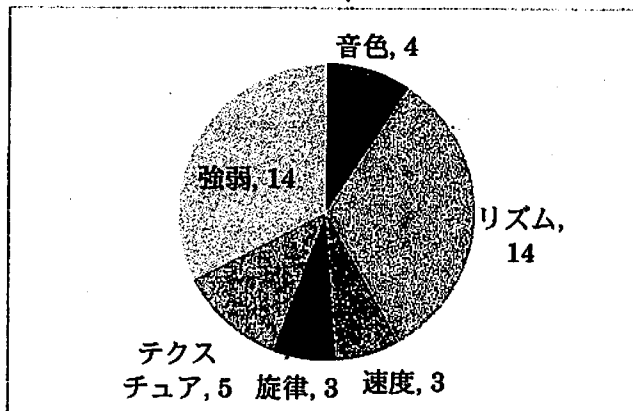
10人組……大人数の方がたくさんの意見が出て、いろんな意見を聞くことができる。

【合唱活動について】

③あなたが考える“良い合唱”はなんですか？（音楽面のみ抜粋）

声量がある ハーモニーがきれい 声がそろっていて強弱がついている

④合唱を仕上げる上で大切にしている音楽の要素はなんですか？



音色……………口角をあげ、口の中をあけて、響きの良い声で歌う。

場面に合わせて変化させる。

リズム……………出だしをそろえる。リズムや伸ばす音をそろえる。

ブレスのタイミングをそろえる。

速度……………速度の変化に気をつける。

旋律……………きれいに聞こえるように旋律を目立たせる。

テクスチャ…合唱の形に合わせてバランスを考える。

強弱……………強弱をつける。

【話し合い活動について】の質問は、音楽に限定せずアンケートを行ったが、困っていないと感じている生徒は1名であった。「意見が言えない」という背景には、人間関係や個々の性格もあるが、生徒たちは、音楽の知識が身につけていないために考える情報が乏しく「わからない」と考えているように感じる。

しかし、【合唱活動について】の質問にあるように、生徒は具体的な“良い合唱”のイメージを持っており、音楽の要素ごとに片寄りがあるものの、音楽の要素を使って音楽表現を考えることができている。だが、そこに自信が持てず「合っているか分からないから」と、自分の意見を伝えるということに苦手を感じている生徒が多いことがわかる。

こうした実態から、自分の考えた意見を伝えるための話し合い活動の形態を工夫し、生徒たちがよりよい音楽表現を目指していく力を育てたいと思い、本研究を行うこととした。

3 仮説

【仮説1】

題材の導入に、生徒一人一人が思いや意図を持てるような活動を工夫すれば
その後の表現の活動がより主体的になり、よりよい音楽表現につなげることがで
きるだろう。

<手立て>

- ① パート選択の段階で、楽曲分析をする活動を行う。
- ② 仲間と声の聴き合いを行い、根拠を持ってパートを選択する場を設定する。

【仮説2】

主体的・対話的な活動を工夫することにより、思いや意図を生かした音楽を表
現する力が育つであろう。

<手立て>

- ① 話し合いの場の形態を変化させ、個々の思いを十分に伝えられるようにす
る。
- ② 他のグループの表現の工夫を全体で共有することで、さらなる表現の工夫
へとつなげる。

4 指導の実際

検証授業①

(第2学年の授業実践)

【仮説①】 傍線 【仮説②】 波線

1 題材名 自分の声の特徴を生かした合唱をしよう

教材名 「若人の歌」(混声四部合唱) 小山章三 作詞・作曲

2 題材について

(1) 題材観

第2学年及び第3学年の歌唱の活動では、〔共通事項〕との関連を図りながら、歌詞の内容や曲想を味わい曲にふさわしい表現を工夫して歌う能力、曲種に応じた発声や言葉の特性を理解してそれらを生かして歌う能力、声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して表現を工夫しながら合わせて歌う能力を高めていくことが指導のねらいである。その中でも、本題材では、主に声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して表現を工夫しながら合わせて歌う能力を伸ばすことを主とした。

学習指導要領とのかかわり

第2・3学年 A表現(1)ウ 声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して、
表現を工夫しながら合わせて歌うこと。

〔共通事項〕ア 音色、構成

本題材は、自分の声の音色を理解し、声部の役割や混声四部合唱の豊かな響きのために、どのように生かすことができるかを考えることをねらいとする。その手段として、通常はパートの音取りのみに使用するパート別CDから、それぞれの声部がどのような声の音色で歌われているのかを感受し、自らの声を仲間と聴き合い、客観的な意見をもとにしたパート選択をする活動を行う。そして、声部ごとのパートの役割に気付き、思考するきっかけとし、表現工夫に生かせる力を身につけたい。

そのために、判断材料となる音楽の要素をもとに「自分の声」を素材として、音の高低だけで無く、〔共通事項〕の音色に絞って感受・思考させ、身につけた力を今後の活動につなげていきたいと考える。

(2) 生徒の実態

2年E組は男子17名、女子20名、計37名で構成されている。活発な生徒が多く、明るい雰囲気がある。その反面、自分の意見を発表することを苦手とする傾向があり、積極的な生徒の陰に隠れてしまう生徒や、他の意見に追加するように活動する

生徒が多く、個々に良い意見を考えていても発表せず、全体に共有することができない。互いの意見を生かし、さらに高い目標に向かっていくという意識が弱い実態がある。

1年次の合唱活動では、ユニゾン・ハーモニー・掛け合いといった構成の違いを生かした表現の工夫を繰り返し指導をした。結果、構成に合わせた強弱変化を意識して表現を考えることができるようになった。クラスが変わった後、2年次の合唱コンクール自由曲「翔る川よ」では、流れるような川の流れや声部の役割を意識した強弱変化など、より工夫して合唱を作り上げることができた。

・実態調査（11月30日実施 回答34名、欠席等3名）

Q1 自分の歌声で悩みはありますか？

ある（23名） / ない（11名）

Q2 自分の考える“良い合唱”とはどのようなものですか？（抜粋）

- ・声がそろっていて、強弱のある合唱
- ・声量がある。
- ・強弱や音程がしっかりしている。
- ・ハーモニーがきれい。

この調査から、現在、自分の歌声に悩みをもっている生徒が多くいることが分かる。具体的には、男声は低音・女声は高音がでにくいと感じている生徒が多くいた。女声の中には、地声になってしまうという意見もあり、発声方法に大きな課題を感じているという生徒が多くみられた。また、男声は変声前や変声途中の生徒が多く、Fより低い音が歌える生徒は限られている。これは、2年次当初、学級が始まった頃と大きく変わっていない。

生徒の考える“良い合唱”とは、「一生懸命に歌うこと」「全員が全力を発揮している」等の情意面に関することが大多数を占める。音楽面に関する意見では、強弱のついた演奏という意見がほとんどであり、音色や声部のバランス・構成といった音楽の要素への意識は薄いなど、片寄りがあることもわかった。

一人ひとりがより深い思いや意図をもつために、音色に着目して考える力がつくような活動を工夫して行い、自信をもって発言できるようにしたい。また、自分の「声」を聴かせ、仲間から意見をもらう活動を通して、意見交換を積極的に行い、生徒がよりよい音楽表現を目指すよう指導の工夫が必要である。

（3）指導観

教材として扱う「若人の歌」はア・カペラの混声四部合唱曲である。生徒たちにとって、ア・カペラも混声四部合唱も初めてとなる。ユニゾンから始まるため、音程を

取ることに課題のある生徒も歌い始めが安心でき、ハーモニーや掛け合いの部分がはっきり分かれ、声部の役割が理解しやすく、混声四部合唱の響きを味わうことができる楽曲である。

これまで生徒の多くは、パート決定をする際、仲の良い友達と同じパートを選んだり、積極的な生徒はメロディーの多い Sop を選んだり、目立つところの少ない Alt で負担無く終えたいという考えが見受けられた。その結果、練習を始めてから、自分に合わないと感じ、相談に来る生徒が度々いたが、声部の役割の理解とパートを選択する判断力が甘いことが原因であると考えられる。この楽曲は16小節と短いため、複数のパートを練習し、それぞれのパートを歌った感覚をパート選択の判断材料のひとつにすることができる。また、複数のパートを歌う体験は、パートの役割をより具体的に考える活動につなげることもできる。

本題材を通して、自分の声の音色と声部の役割を考えることで、一人ひとりが合唱を創造的に取り組むことができ、牙・カペラや混声四部合唱といった、今までとは違う課題に挑戦することで、3年生に向けて歌唱の技能も伸ばすことができると考える。

3 題材の目標 自分の声の特徴を生かした合唱をしよう

4 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
① 混声四部の響きや声部の役割に関心をもち、自分の声の音色を生かし、表現しようとしている。	① 混声四部の響きや声部の役割を生かし、音楽表現の工夫を考えることができる。	① 混声四部の響きをとらえながら、合唱することができる。
② 混声四部の響きや声部の役割に関心をもち、自分の声の音色を生かしたパートを選択することができる。		

5 指導と評価の計画（4時間扱い）

時間	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動 ☆【共通事項】		・教師の働きかけ ○評価規準 【評価方法】
	◎混声四部の響きをとらえ、合唱する。		
第1次	1	○自分の声の特徴を考える。 ・自分自身の考えと、仲間の意見を聞	・自分の声に意識を向けさせ、 <u>声の特徴</u>

		き、「自分の声」に注目する。 ○楽曲を聴き、全体の構成をつかむ。 ○パート練習 ・男女に分かれ、それぞれ2パートを練習する。 ・楽譜は用いず、聞き取りのみで練習を行う。 ○合唱練習 ・男女それぞれ2グループに分け、円になって行う。 ・パートを交代しながら、2パートとも歌う。	を自分なりに意識できるようにする。 ・曲の構成を知り、各パートの役割をつかむことによって意欲を持たせる。 ・女声は Sop と Alt, 男声は Ten と Bass の両方を練習する。 ・聴くことに集中させ、音程やリズムをしっかりとらせる。歌詞は板書しておく。 ・人数をしばらく、<u>お互いの声を聴きやすくする。</u> ・どちらのパートも歌わせ、仲間と合わせたときに、<u>自分の声はどう生かされるのか意識させる。</u> ◇（関－①） 【観察】 混声四部の響きや声部の役割に関心を持ち、自分の声の音色を生かし、表現しようとしている。
第2次	2	◎混声四部の響きや声部の役割と、自分の声の音色について考える。 ○合唱練習 ・男女混合グループを組み、合唱する。 ・演奏の課題を考え、発表する。 ○楽曲分析をし、曲にふさわしい音色を考える。 ・ユニゾン、ハーモニー、掛け合い等、楽曲分析をし、その場面にふさわしい音色を個人で考え、発表する。 ☆【構成】 ○パートにふさわしい声の音色を感受する。 ・パート別のCDを聴き、<u>それぞれにふさわしい声の音色</u>を考える。	・男女とも、どちらのパートも歌わせ、仲間と合わせたときに、<u>自分の声はどう生かされるのか意識させる。</u> ◇（技－①） 【観察】 混声四部の響きをとらえながら、合唱することができる。 ・範唱CDを聴きながら、行う。 ◇（創－①） 【楽譜への書き込み】 混声四部の響きや声部の役割を生かし、音楽表現の工夫を考えることができる。 ・各パートの声の音色を感受した意見は、板書し、クラス全体での共通理解を図

	3 (本時)	○2人組を作り、互いの声を聴き合う。 ・2パートを歌い、声量・音程の正確さ・言葉の明瞭さ・充実した響きの四点で比較する。 ・<u>声の音色を助言</u>する。 ○自分の声の音色に合うパートを選択しよう。 ・根拠を明確にし、自分に合ったパートを選択する。 ☆〔音色〕	る。 ・声の音色は高低とは違うことを伝え、混同しないよう指導する。 ・<u>組む相手を変えて行わせ</u>，たくさんの意見をもらえるようにする。 ・前の活動で得た意見を参考に，<u>パートの決定は自分で行う</u>。 ◇（関一②） 【ワークシート】 混声四部の響きや声部の役割に関心をもち，自分の声の音色を生かしたパートを選択することができる。
第3次	4	◎混声四部の響きを味わい，自分たちの演奏を批評する。 ○選んだパートで<u>全体合唱</u>をする。 ・前時の考えを生かし，映像を見ながら改善点をみつける。 ・範唱のCDと自分たちの演奏を比較する。 ・改善点を意識し，まとめの合唱をする。 ○まとめ ・本題材で達成したこと，次への課題をまとめる。	・合唱風景をビデオ撮りし，自分達の歌声を客観的に見られるようにする。 ・前時で考えた，<u>ふさわしい音色や声の音色</u>を基準に考えて課題点が出るようにする。 ・次の題材に生かせるよう，まとめの合唱もビデオ撮りしておく。 ◇（関一①） 【観察】 混声四部の響きや声部の役割に関心をもち，自分の声の音色を生かし，表現しようとしている。 ◇（技一①） 【観察】 混声四部の響きをとらえながら，合唱することができる。 ・自分の感想だけでなく，パートの選択などをふまえ，全体合唱としてどのような点が良くなったか発表させるよう

			にする。 ・次の題材につながる事を考えさせ意欲を持たせる。
--	--	--	----------------------------------

6 本時の指導（3／4）

（1）本時の目標 自分の声の音色を生かして、パートを選択しよう。

（2）本時の展開

過程	時配	○主な学習内容 ・学習活動 「発問」『予想される生徒の反応』	・教師の働きかけ ◇評価；【評価方法】 ☆【共通事項】	【共通事項】 の扱い
めあてをもつ	8	○パート練習 ・男声と女声に分かれ、2パートのパート練習を行う。	・本時の目的を明確に伝え、学習に向かう雰囲気を作れるようにする。	
	2	○本時のめあてをつかむ。		
		自分の声に合ったパートを選択しよう。		
見通しをもつ	8	○各パートにふさわしい音色を感受する。 ・前時に個人で考えた意見を発表し、理解を深める。 「各パートにふさわしい声の音色は？」 Sop『透き通った声、突き抜ける声、メロディーが多いからよく響く声が良い』 Alt『芯のある声、重みのある声、Sopよりゆったりした声』 Ten『明るい声、主張するような声、流れている声』 Bass『迫力のある声、地面に響くような深い声、音程は低い	・仲間から自分の声の音色について意見をもらい、自分に合ったパートを選択することを確認する。 ・前時で考えた意見を発表させる。 ・意見は板書し、次の活動の参考になるようにする。	

考えを深める	20	けれど暗くない声』 ○2人組を作り、互いの声を聴き合う。 ・2パートを互いに聴き合う。 ・声量・音程の正確さ・言葉の明瞭さ・充実した響きの四点で比較する。 ・声の音色を助言する。	・声の音色は高低とは違うことを伝え、混同しないよう指導する。 ・別の仲間と組んで、交代で3組行う。	〔音色〕 仲間の声の音色を感受する。
	8	○自分の声の音色に合うパートを選択しよう。 ・自分の歌った感覚と前の活動でもらった意見を参考に自分で選択する。 ・根拠を明確にし、自分に合ったパートを選択する。 ・選んだパートと根拠を発表する。	・仲間の助言を参考に、自分の考えで書くように指導する。 ・なぜ、そう思うのかという根拠を書くよう指導する。 ◇（関一②） 【ワークシート】 混声四部の響きや声部の役割に関心を持ち、自分の声の音色を生かしたパートを選択することができる。	
	4	○次時の予告 ・次時への課題を発表する。	・次時は選んだパートで合唱をしていくことを伝え、パートで取り組む課題を考えさせる。	

（3）本時の評価と教師の働きかけ

評価の判断	生徒の様子と教師の働きかけ
十分満足できる生徒の姿	・自分の声の音色を生かしたパートを根拠をもって、選択し、他の生徒への助言もできる。
努力を要する学習状況と思われる生徒に対しての手立て	・声の音色を掴めない生徒に対し、板書をヒントにさせ、具体的な助言を行う。 ・根拠を持たない生徒に対し、仲間の意見を一緒に読み取り、そこから考えを深めるよう助言する。

(4) 板書計画

今日の目標	〈メニュー〉	♪各パートにふさわしい声は？			
自分の声に合ったパートを選択しよう	1 パート練習	Sop	Alt	Ten	Bass
	2 パートにふさわしい声				
	3 声の聴き合い				
	4 パート選択				

検証授業②

(第3学年の授業実践)

【仮説①】 傍線 【仮説②】 波線

- 1 題材名 曲の特徴を生かして、よりよい表現を目指そう（7時間扱い）
教材名「歌え 歌え！！」 作詞・金沢智恵子 作曲・橋本祥路

2 題材について

(1) 題材観

学習指導要領の第2学年及び第3学年の目標（2）には、「多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める」とある。（2）は多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取ること、表現の技能を伸ばすこと、創意工夫して表現することについて示したものであり、表現に関する目標である。技能と創意工夫して表現することを互いに高めていくことが大切である。

学習指導要領とのかかわり

第2学年及び第3学年の内容

(1) A表現 (1)ア 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと

ウ 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うこと

〔共通事項〕 ア 音色、リズム、テクスチュア

本単元では、第3学年という発達段階を考慮し、ア・カペラのハーモニーの美しさや付点のリズム、四声部のテクスチュアの豊かな変化を感じ取り、自分たちで意見を出し合いながら、音色や強弱を変化させ音楽表現を工夫する力を高めていきたい。

(2) 生徒の実態

3年E組は男子17名、女子21名、計38名で構成されている。活発な生徒が多く、活動に前向きに取り組む雰囲気がある。合唱活動を自主的に行うことができ、パート練習や合唱練習をリーダーを中心に運営することができる。その反面、自分の意見を発表することを苦手とする生徒が、積極的な生徒の陰に隠れてしまったり、他の意見に追加するように活動する生徒が多く、個々に良い意見を考えていても発表せず、全体に共有することができない実態がある。これは、音楽の共通事項への理解が甘く、考えを表現する言葉が見つからないことが原因ではないかと考える。その実態を解決するために、2年次より、ユニゾン・ハーモニー・掛け合い・オブリガートといったテクスチュアの違いを生かして、音色や強弱を使った表現の工夫を考え、話し合う活動を繰り返し行ってきた。

実態調査アンケート

『合唱を仕上げる上で、大切なことはなんですか?』という質問をした。
生徒たちの回答を共通事項に沿ってまとめた。

- ・音色に関すること

口角をあげて笑顔で歌う 口の中をあけて歌う

その曲に合った声で歌う

- ・リズムに関すること

ブレスを合わせる 音程を正確にしてきれいにハモる 出だしをそろえる

伸ばす音をそろえる リズムを合わせる

- ・旋律に関すること

きれいに聞こえるようメロディーを目立たせる

- ・強弱に関すること

強弱をつける

- ・構成に関すること

互いのパートを聴く バランスに気をつける

パートそれぞれの役割を理解する

ハーモニーや掛け合いの所を強調させるように歌う

- ・その他

歌詞の意味を理解する 指揮者に協力する 姿勢や目線をそろえる

一人一人の意見を尊重し、歌に取り入れる 課題を言い合う 集中する

歌いやすい環境作り ふざけないで練習できる雰囲気 目標を持つこと

反省を大事にし、改善する 楽譜や記号を守る

アンケートの結果、下線部の意見に指導の成果が見え、音色や強弱に関連させ、音楽表現を工夫する力がついていると分かる。しかし、合唱の仕上げ段階でリズムに重きを置く生徒は少なく、音楽表現を考える一つの手立てとして生徒達の中に確立していないことが分かった。今回の学習で、さらに多くの音楽の要素を用いた音楽表現を考え、全体に共有する経験を重ね、10月の合唱コンクールや、3月の卒業式に向け、よりよい音楽表現を目指す力をつけたい。

本学級を交流クラスとする生徒Tは、他の生徒と同じように合唱活動を行うことができる。しかし、日々の短学活での歌練習に参加していないため、曲を覚えることに時間が要する。パート練習の際、Tの様子に配慮し、苦手とする部分は他の生徒よりも時間をかけ練習する必要がある。また、考えを深める話し合いの場面では、他の生徒の中に入れるような支援が必要である。

(3) 指導観

本題材は、生徒たちにとって、2曲目のア・カペラの楽曲となる。前回の「若人の歌」では、自分の声の特徴を生かした合唱をしようという目標で、楽曲に適した声を考え、お互いの声を聴き合いながら、自分の声にふさわしいパートを選択するという内容で学習をした。結果、今まで特にこだわりなく決めていたパートに意識が向くきっかけとなり、合唱活動でのパートの役割や、曲に適した音色をもとに音楽表現を工夫する生徒が増えてきた。

本題材は、テクスチュアの変化が捉えやすい楽曲である。前半は付点のリズムが印象的な旋律が、ユニゾンとハーモニーの繰り返しによって構成され、後半は掛け合いの要素が登場し、流れるような曲想に変化する。コーダでは、ソプラノ→テノール→アルト+バスでの掛け合いとなり、混声三部合唱では味わうことのできない魅力がたくさん詰まっている曲である。前回の学習での学びを深め、一人ひとりの意見が楽曲に反映できるよう、小グループでの学習を行う。また、進行していく楽曲の特徴を捉え話し合うために、全パートが混ざったグループで活動を行っていきたい。

「このように表現しよう」「このように工夫したら良いのではないか？」という生徒たちの対話を中心となり、授業を展開する。この単位によって、自分の考えが音楽表現に生かされるという達成感を味わい、さらによりよい音楽表現を目指す集団となっていく力を育てたい。

3 題材の目標 曲の特徴を生かして、よりよい表現を目指そう

4 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
①パート練習に意欲的に取り組もうとしている。 ②曲の特徴に関心を持ち、合唱しようとしている。 ③他のグループの発表に根拠をもって批評しようとしている。	①楽曲を聴き、曲の特徴を感じ取っている。 ②合唱表現を工夫し、どのように演奏するかについて、自分の考えや願い、意図を持っている。	①音程とリズムを正確に歌っている。

5 指導と評価の計画（7時間扱い）

時間	◎ねらい	
	○学習内容 ・学習活動 【共通事項】	・教師の働きかけ ◇評価規準【評価方法】

第 一 次		◎混声四部合唱の響きを感じて、合唱する。	
	1	○楽曲を聴き、曲の特徴をとらえ、パートを選択する。 ・パートの役割に注目して聴き、楽譜に記入する。 ・自分に合ったパートを選択する。	・曲の特徴をとらえ、この曲におけるパートの役割やパートの声の音色を考えさせる。 ・自分の声の音色が生かせるよう、パートを選択させる。 ◇（創－①）楽曲を聴き、曲の特徴を感じ取っている。【楽譜への書き込み】
第 二 次	2	○パート練習を行う。	
	3	・4つのパートにわかれてパート練習を行う。 ・自分のパートの動きに注目し、パート練習のポイントを話し合う。 ・音程やリズムを正確に歌い、覚えるように練習を行う。 〔音色・リズム・テクスチャ〕 ○全体合唱をする。 ・音程やリズムに注目して合唱する。 ・うまく合わない場所は、部分で取り出して合わせる。	・自分のパートにラインを引き、パートの動きを視覚的に捉えさせる。 ・進め方をアドバイスしたり、機器を用意（メトロノーム・CD・キーボード）したりし、生徒が主体的に進められるようにする。 ◇（関－①）パート練習に意欲的に取り組もうとしている。【話し合い、パート練習の様子】 ・音程とリズムを正確に歌うことに焦点を絞り、合唱するようにする。 ・難しい箇所は繰り返し練習させ、自信を持って歌えるようにさせる。 ◇（技－①）音程とリズムを正確に歌っている。【合唱】
第 二 次		◎楽曲の特徴を生かして、表現の工夫を考えよう。	
	4	○前半部分の曲の特徴をまとめる。 ・4小節ごとの、テクスチャの変化を理解する。 ・ハーモニーの部分の各パートの動きを感じる。 ・付点のリズムに着目する。 〔テクスチャ〕	・どの部分を工夫するのか確認し、全員で合唱させる。 ・次の活動のヒントとなるよう、注目させる点を全員で共通理解させ、拡大譜に記入する。 ・ハンドサインを用いて、視覚や体感的に分かるように指導を工夫する。

○前半部分の曲の特徴を生かした表現を考える。

- ・ 4小節ごとに、ふさわしい音楽表現を個人で考える。
- ・ 個人で考えた意見をもとにグループで話し合う。
- ・ 考えがまとまったら、グループで合唱してみる。
- ・ グループの考えを発表し、全体で共有して合唱する。
- ・ 批評し合う。

〔音色・リズム〕

○後半部分の曲の特徴をまとめる。

- ・ 2小節ごとの、テクスチュアの変化を理解する。
- ・ 同じ歌詞がくり返されることを知る。

〔テクスチュア〕

○後半部分の曲の特徴を生かした表現を考える。

- ・ 2小節ごとに、ふさわしい音楽表現を個人で考える。
- ・ 個人で考えた意見をもとにグループで話し合う。

◇（関一②）曲の特徴に関心を持ち、合唱しようとしている。【合唱】

- ・ 3グループに分かれて、共通事項を生かした話し合いを進めさせる。
（各パートを3分割し、1グループ12～13人になるようにする）
- ・ まず、個人の考えをまとめる時間を設け、グループでの話し合いに生かせるようにする。
- ・ 拡大譜に意見をまとめ、他のグループに伝わりやすくする。
- ・ 「なぜそう思ったのか？」という理由を問いながら、さらに考えが深まる発問をする。

◇（創一②）合唱表現を工夫し、どのように演奏するかについて、自分の考えや願い、意図を持っている。【拡大譜への書き込み、話し合いの様子】

- ・ どの部分を工夫するのか確認し、全員で合唱させる。
- ・ 次の活動のヒントとなるよう、注目させる点を全員で共通理解させ、拡大譜に記入する。
- ・ ハンドサインを用いて、視覚や体感的に分かるように指導を工夫する。

◇（関一②）曲の特徴に関心を持ち、合唱しようとしている。【合唱】

- ・ 10グループに分かれて、共通事項を生かした話し合いを進めさせる。
（前時のグループをさらに分割し、1グループ3～4人にする）

	・考えがまとまったら、グループで合唱してみる。 ・<u>グループの考えを発表し、全体で共有して合唱する。</u> ・批評し合う。 〔テクスチュア・音色〕	・さらに少人数グループにすることにより、自分の意見を出しやすくする。 ・まず、個人の考えをまとめる時間を設け、グループでの話し合いに生かせるようにする。 ・拡大譜に意見をまとめ、他のグループに伝わりやすくする。 ・「なぜそう思ったのか？」という理由を問いながら、さらに考えが深まる発問をする。 ◇（創一②）合唱表現を工夫し、どのように演奏するかについて、自分の考えや願い、意図を持っている。【拡大譜への書き込み、話し合いの様子】
6	○コードの曲の特徴をまとめる。 ・テクスチュアの変化を理解する。 〔テクスチュア〕	・どの部分を工夫するのか確認し、全員で合唱させる。 ・次の活動のヒントとなるよう、注目させる点を全員で共通理解させ、拡大譜に記入する。 ・ハンドサインを用いて、視覚や体感的に分かるように指導を工夫する。 ◇（関一②）曲の特徴に関心を持ち、合唱しようとしている。【合唱】
	○コードの曲の特徴を生かした表現を考える。 ・掛け合いとハーモニーの部分に分け、ふさわしい音楽表現を個人で考える。 ・個人の考えをもとにグループで話し合う。 ・実際に合唱してみる。 ・<u>グループの考えを発表し、全体で合唱を行い、批評し合う。</u> 〔音色・リズム〕	・<u>3グループに分かれて</u>、共通事項を生かした話し合いを進めさせる。 （元の3グループにもどす） ・まず、個人の考えをまとめる時間を設け、グループでの話し合いに生かせるようにする。 ・拡大譜に意見をまとめ、他のグループに伝わりやすくする。 ・「なぜそう思ったのか？」という理由

		を問いながら、さらに考えが深まる発問をする。 ◇（創－②）合唱表現を工夫し、どのように演奏するかについて、自分の考えや願い、意図を持っている。【拡大譜への書き込み、話し合いの様子】																
第三次	7	◎よりよい音楽表現を目指して、発表しよう。 ○自分たちで考えた表現を高める。 ・自分たちの考えを他のグループに伝え、一緒に合唱する。 ・一緒に歌うグループからの意見も取り入れて、表現の工夫をまとめる。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Bに意見を伝える</td> <td>Aと合同練習</td> <td>Cのみで練習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Aのみで練習</td> <td>Cに意見を伝える</td> <td>Bと合同練習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Cと合同練習</td> <td>Bのみで練習</td> <td>Aに意見を伝える</td> </tr> </tbody> </table> ○発表する。 ・<u>2グループ合同で発表する。1グループは鑑賞し、コメントをする。</u> ○<u>全体でまとめの合唱</u>を行う。		A	B	C	1	Bに意見を伝える	Aと合同練習	Cのみで練習	2	Aのみで練習	Cに意見を伝える	Bと合同練習	3	Cと合同練習	Bのみで練習	Aに意見を伝える
	A	B	C															
1	Bに意見を伝える	Aと合同練習	Cのみで練習															
2	Aのみで練習	Cに意見を伝える	Bと合同練習															
3	Cと合同練習	Bのみで練習	Aに意見を伝える															

・元の3グループで活動し、前半・後半・コードとつなげて表現できるよう、練習の時間を設ける。

・相手のグループに自分達の工夫を伝え、一緒に表現できるよう、拡大譜を用いて説明したり、範唱したりできるように助言する。

・各グループの工夫がわかりやすいよう拡大譜を用いて説明させる。

・鑑賞するグループはワークシートに記入させる。

◇（関－③）他グループの発表に根拠をもって批評しようとしている。【ワークシート】

・意見が多かった表現を取りあげ、全体で共有して合唱するようにする。

6 本時の指導（5／7）

- (1) 本時の目標
- ・後半部分の楽曲の特徴に関心を持ち、合唱しよう。
 - ・後半部分の楽曲の特徴を生かして、表現の工夫をしよう。

(2) 本時の展開

		○主な学習内容	・教師の働きかけ	
過程	時配	・学習活動 「発問」 『予想される生徒の様子』	◇評価 【評価方法】	〔共通事項〕 の扱い
め あ て を も つ	5	○合唱をする。 ・全体で音程、リズムの確認をする。 ・前時までの復習。	・苦手とする部分は、繰り返し指導する。 ・後半部分は、本時の活動を考えて重点的に行う。	
	2	○本時の目標を知る。		
後半部分の楽曲の特徴を生かして、表現の工夫をしよう。				
見 通 し を も つ	10	○後半部分の曲の特徴をまとめる。 ・2小節ごとに分け、テクスチャの変化を理解する。 ・同じ歌詞がくり返されることを知る。	・ピアノの周りに集まり、全員で合唱させる。 ・次の活動のヒントとなるよう、注目させる点を全員で共通理解させ、拡大譜に記入する。 ・自発的な発言を促す。 ・ハンドサインを用いて、視覚や体感的に分かるように指導を工夫する。 ◇（関－②）曲の特徴に関心を持ち、合唱している。【合唱】	〔テクスチャ〕
考 え を 深 め る	20	○後半部分の曲の特徴を生かした表現を考える。 ・2小節ごとに、ふさわしい音楽表現を個人で考える。	・まず、個人の考えをまとめる時間を設け、グループでの話し合いに生かせるようにする。	〔音色・テクスチャ〕

		・個人の考えをもとにグループで話し合う。 「音楽の要素を生かしてふさわしい音楽表現を考えてみよう」 『「ひそやかに」は、弱く』 『「あけゆく」の二回目を階段のように大きく』 『「ように」の二回目は、落ち着いた音色で』 『「歌の輪が広がる」は堂々とした感じで』	・元の3グループをさらに10グループ(3~4人組)に分け、共通事項を生かした話し合いを進めさせる。 ・拡大譜に意見をまとめ、他のグループに伝わりやすくさせる。 ・「なぜそう思ったのか?」という理由を問いながら、さらに考えが深まる発問をする。 ・Tの様子に配慮し、話し合いの中に入れるよう、本人、グループの生徒に声をかける。 ◇(創-②)曲の特徴にあった音楽表現を考えることができる。【拡大譜への書き込み、話し合いの様子】
	10	○考えを発表する。 ・工夫した表現を発表する。 ・元のグループの仲間と歌い、工夫が実際どう表現されるのか確かめる。	・自分達の工夫が伝わるよう、拡大譜を用い、音楽の要素とからめて発表させる。 ・元のグループの仲間と一緒に歌ってもらい、工夫した表現の良さを味わえるようにする。
振り返る	3	○まとめ ・全体で合唱を行い、批評し合う。 ・次時の予告	・評価の高かった表現や、やってみたい表現を取り上げ、全体で合唱するようにする。 ・次時は、コーダの部分を考えていくことを伝える。

(3) 板書計画

今日の目標	〈メニュー〉		グループ の工夫	グループ の工夫
後半部分の 楽曲の特徴を生かして、 表現の工夫を考えよう。	1 確認の合唱	拡大譜	グループ の工夫	グループ の工夫
	2 目標の確認			
	3 曲の特徴をまとめる			
	4 表現の工夫を考える (個人→グループ)			
	5 まとめ			

(4) 本時の評価と教師の働きかけ

「十分満足できる」状況（A）と判断される生徒の学習状況
・ 曲の特徴に関心を持ち、意欲的に合唱に取り組み、発言がある。 ・ 曲の特徴を生かし、共通事項との関連を図りながら、意見を伝えることができる。
「努力を要する」状況と思われる生徒への指導の手立てや働きかけ
・ グループでの話し合いでは、お互いがわかりやすい言葉を使うよう促し、今話し合っている部分はどこか楽譜にラインを引かせて、注目させるようにする。 ・ 話し合いの場を工夫し、全員が話し合える形態にする。

5 研究の成果と課題

【成果】

仮説1について

- ・ パート選択の段階で楽曲分析をしたことで、パートの特徴を理解することができ、曲に対する思いや意図をもって主体的に表現活動に取り組むことができた。
- ・ パート選択の段階で互いに声を聴き合い伝え合ったことで、根拠を持ってパートを選択することができた。

仮説2について

- ・ 話し合いの場の形態を、場に応じて変化させたことにより、一人一人が自分の思いを伝えることができるようになった。
- ・ 他グループの表現の工夫を、全体で共有することで、少人数グループで話し合ったことが、全体の話し合い活動の場でも生かされ、個々の思いを十分に伝えられるようになり、よりよい表現をしようと学習を深めることができた。

【課題】

仮説1について

- ・ 思いや意図が持てるような、発達段階に応じた教材開発が必要である。

- ・ 思いや意図を表現できるように、生徒に様々な表現技能を身につけさせる必要がある。

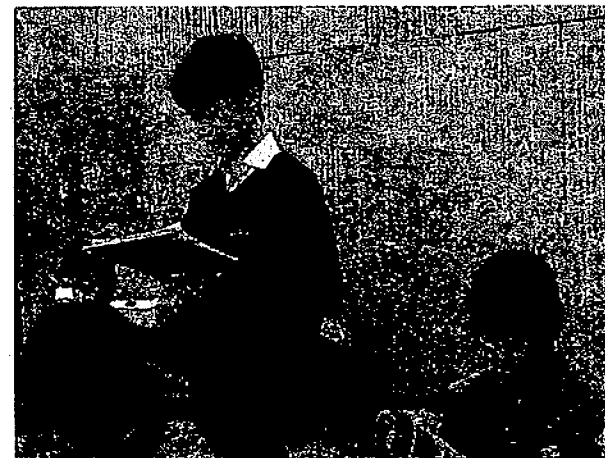
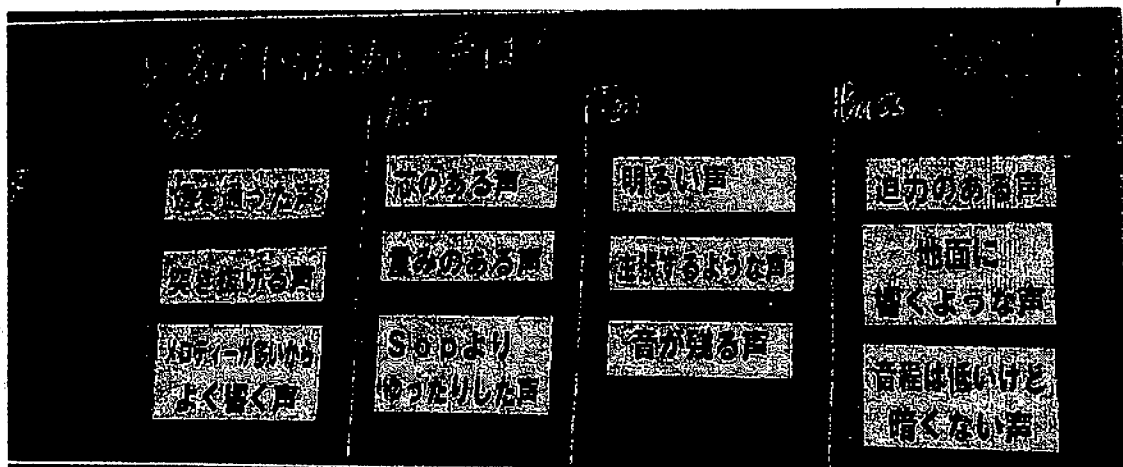
仮説2について

- ・ 言語活動に時間がかかってしまうと、実際に歌って表現する時間が短くなってしまいうので言語活動と表現活動の繰り返しができるように、ポイントを絞ったり、時間配分を考えたりする必要がある。
- ・ 楽曲分析を十分に行い、生徒の思いや意図が、楽曲の持つよさから離れないように気をつける必要がある。

資料編

検証授業①【板書】

資1



【授業風景】



自分に合ったパートを選択しよう

♪自分の歌声ってどんな声だろう？

聴いてくれた人		声量	音程の正確さ	言葉の明瞭さ	充実した響き	声の音色（高低以外で書きましょう）
[]	Sop/Ten	○	○	○	○	すきとか、23声
	Alt/Bass					
[]	Sop/Ten	○	○	○		響く時にスリキスリキしている。
	Alt/Bass				○	
[]	Sop/Ten					
	Alt/Bass					

♪自分に合ったパートを選択しよう

自分に合うパートは	なぜそう思うか？
ソプラノです。	ピアノも持ちあげて歌って、リコーンがすぐでしやすくなり、声も通る大きな声になれたと思うから。A1、すきとか、23声とか。

自分に合ったパートを選択しよう

♪自分の歌声ってどんな声だろう？

聴いてくれた人		声量	音程の正確さ	言葉の明瞭さ	充実した響き	声の音色（高低以外で書きましょう）
[]	Sop/Ten				○	透き通る声!! とて
	Alt/Bass	○	○	○		
[]	Sop/Ten		○			しっかりしている声
	Alt/Bass	○		○	○	
[]	Sop/Ten					
	Alt/Bass					

♪自分に合ったパートを選択しよう

自分に合うパートは	なぜそう思うか？
Altです。	声量や言葉の明瞭さがAltの方が良く、あといい感じ。自分でもAltの方がいい。今まではSopだったけど、しっかり響いて安定しているから。

自分に合ったパートを選択しよう

♪自分の歌声ってどんな声だろう？

聴いてくれた人		声量	音程の正確さ	言葉の明瞭さ	充実した響き	声の音色（高低以外で書きましょう）
()	Sop/Ten	○	○	○	○	ききやすい声では。そりしてる。他にところがかまえていた。
	Alt/Bass					
()	Sop/Ten	○	○	○	○	低い声がかすれているけど、高い音は、ひびきがある。少し暗い声もある。
	Alt/Bass					
()	Sop/Ten					
	Alt/Bass					

♪自分に合ったパートを選択しよう

自分に合うパートは	なぜそう思うか？
テノール	テノールの音がよく音も響くし、バスだとまた音がかすれてしまったから。
です。	テノールの方が歌やすい。

自分に合ったパートを選択しよう

♪自分の歌声ってどんな声だろう？

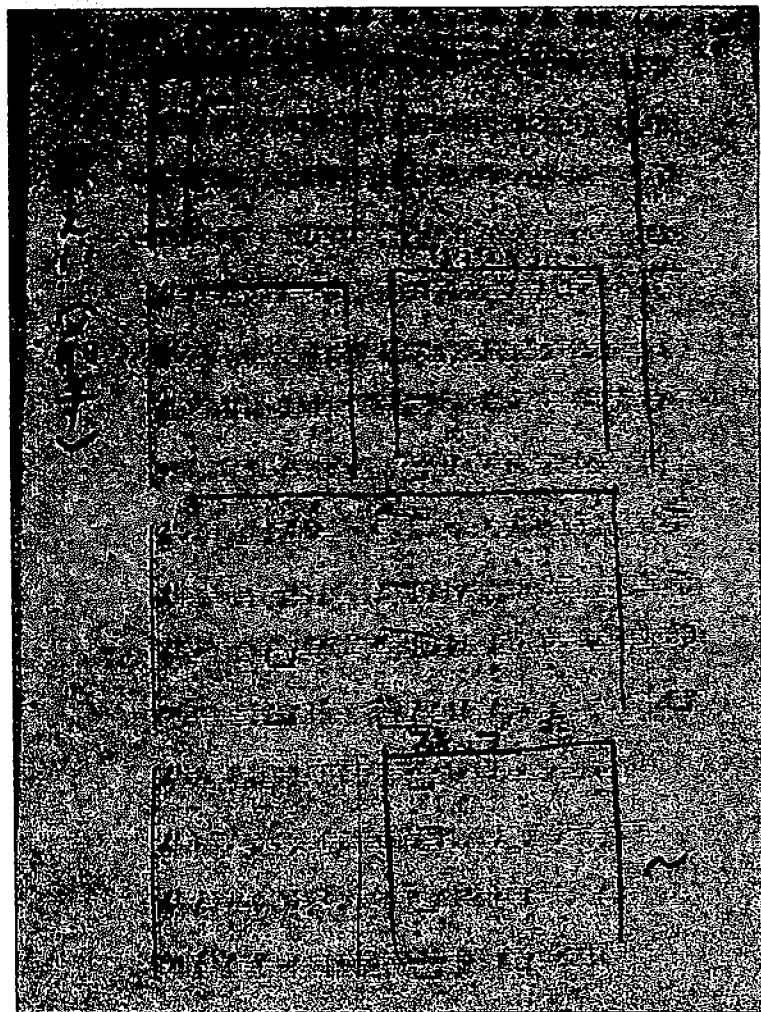
聴いてくれた人		声量	音程の正確さ	言葉の明瞭さ	充実した響き	声の音色（高低以外で書きましょう）
()	Sop/Ten					すごくひびいてる！
	Alt/Bass	○	○	○	○	
()	Sop/Ten					音程もあってすごくよかった！
	Alt/Bass	○	○	○	○	
()	Sop/Ten					
	Alt/Bass					

♪自分に合ったパートを選択しよう

自分に合うパートは	なぜそう思うか？
Bass	聴いてくれた人もBassにまいてくれと自分的にも明るい声で響かせるよりも地面上に響くような声の方が響かせやすいしテノールの声がかすれていくからBassの方がいいと思いました。
です。	

検証授業②【Cグループの例】

前半部分

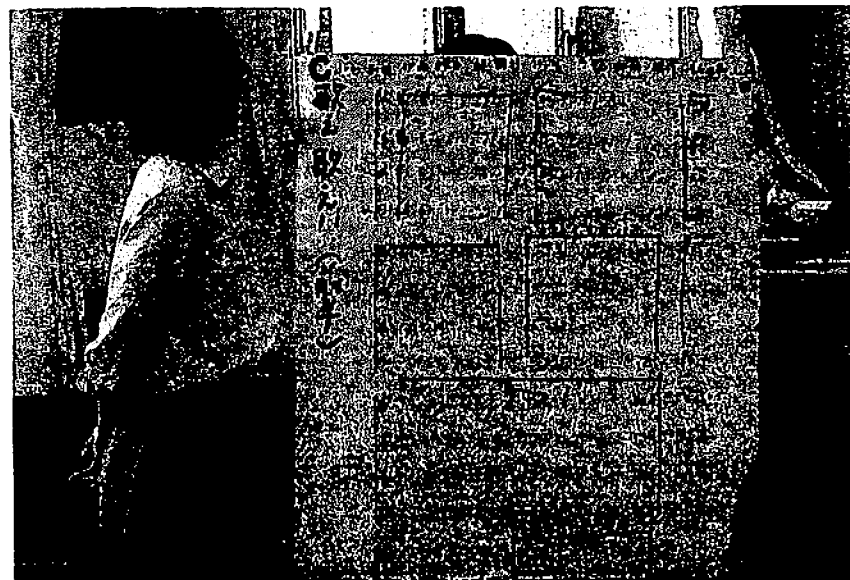


話し合いの様子

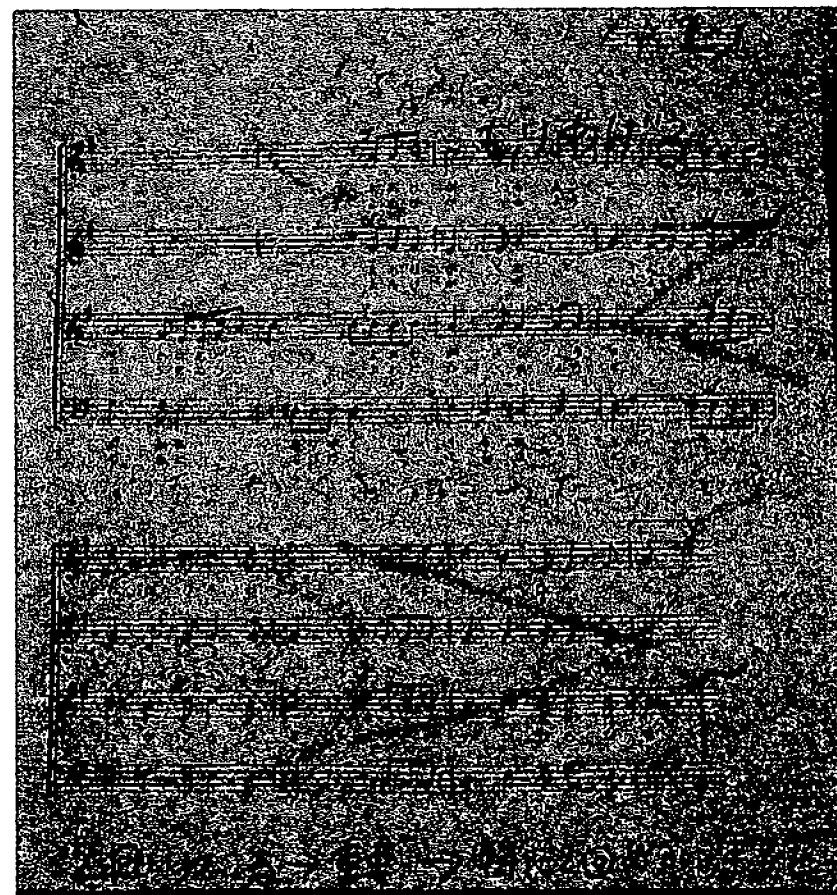
資4



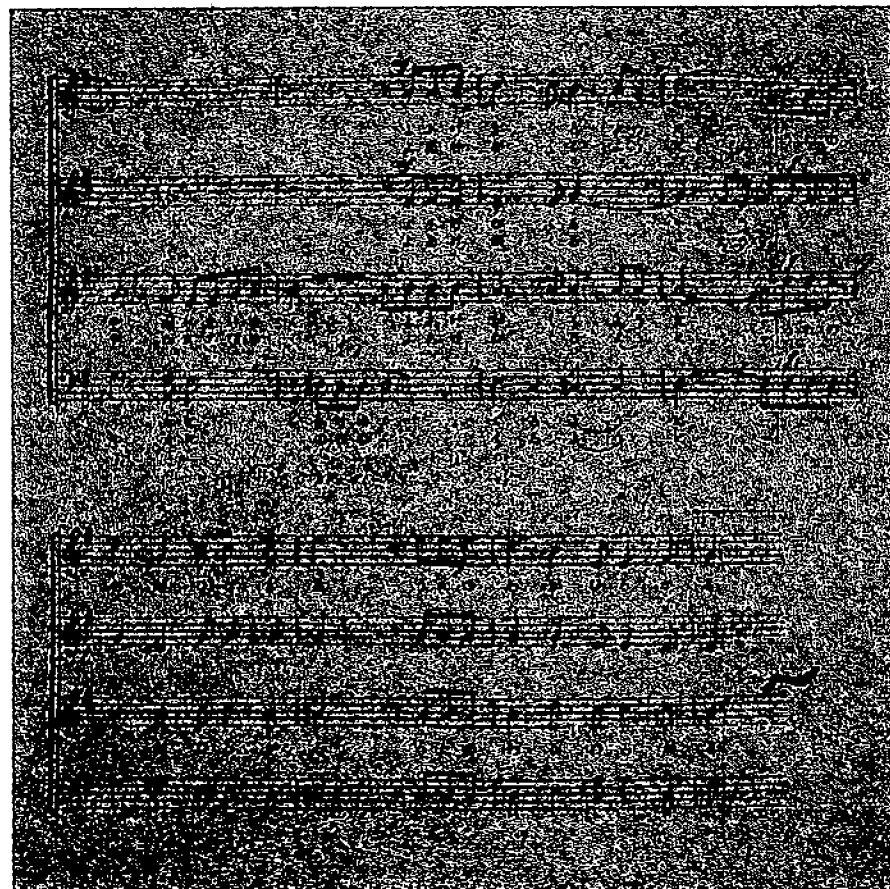
発表



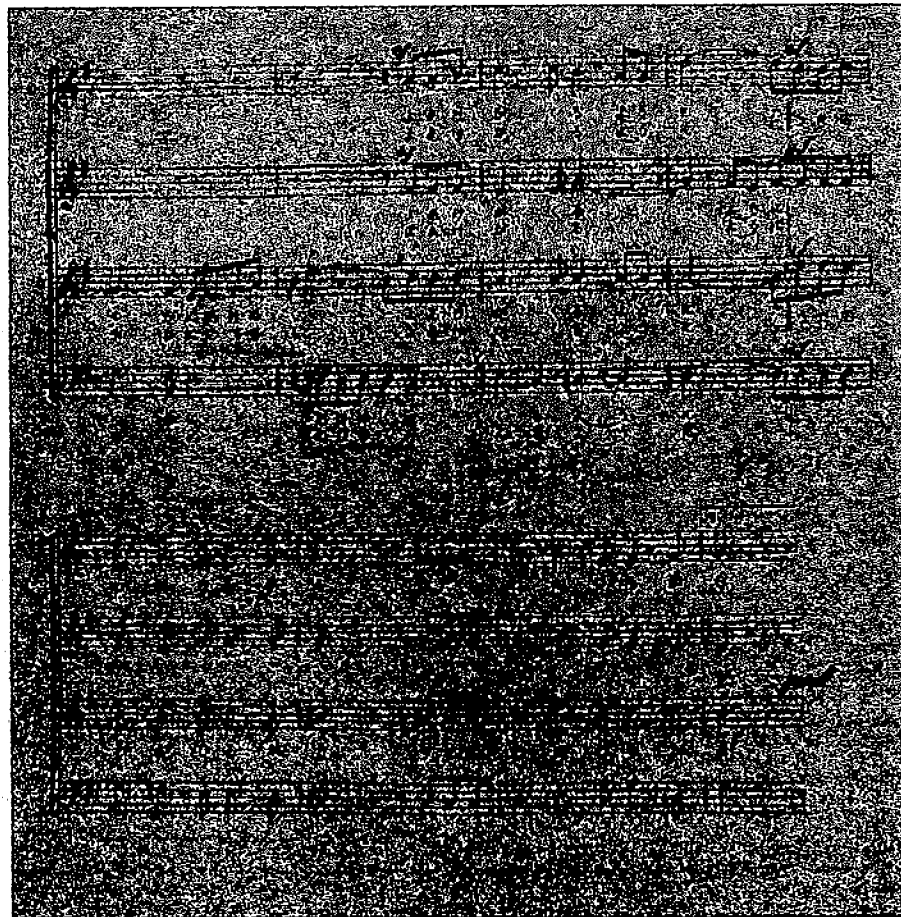
後半部分②



後半部分①



後半部分③

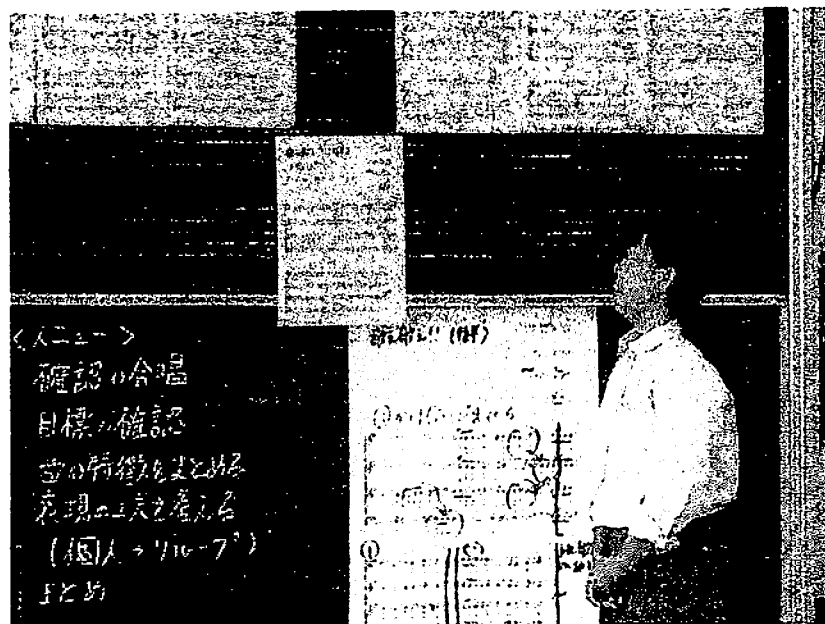


話し合いの様子

資6



発表



コーダ

資7

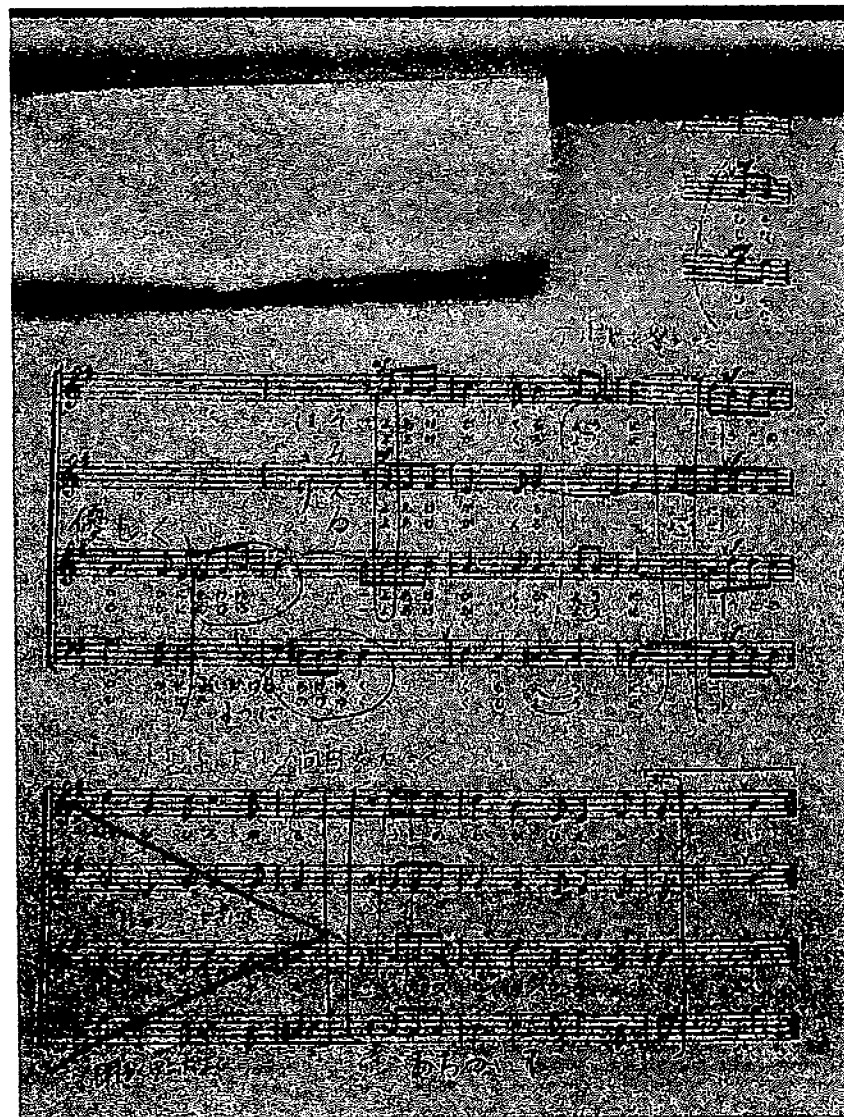


歌いながらまとめている様子



まとめの楽譜

資8



研究主題

音楽の美しさを聴き取ろう 感じ取ろう そして伝え合おう
～一人一人の思いや意図を実現するための授業づくり～

1 研究副主題について

「一人一人の思いを生かした豊かな表現のできる児童をめざして」
～様々な言語活動や表現活動を通して～

2 研究仮説

【仮説1】

歌詞の意味を理解し、その心情や情景をイメージして、歌詞の意味を互いに伝え合い共有する活動を充実させることで、豊かな表現に生かすことができるようになるだろう。

【仮説2】

様々な曲を聴いたり歌ったりする活動を通して、歌詞と楽譜の関係に気付き、音で試す活動を充分取り入れることで、豊かな表現活動につなげることができるだろう。

3 研究内容

【仮説1】について

歌詞から感じ取ったことを子ども同士で伝え合い、話し合う活動を取り入れる。その中から、大切にしたい言葉や表現したいことなどの意見交換をおこない、その曲に合った表現方法を見つけることができるようにする。

【仮説2】について

歌詞と楽譜の関係を、自分の感じ方だけではなく、友達の感じ方にも気づくようにさせる。そして、音楽の構造や曲想との関わりを共通事項を手がかりに考えることで、子どもたち自身の思いを生かした表現活動に結びつけることができるようにする。

4 研究計画

年 月	内 容
H29年 6月～ 7月	○研究副主題と仮説の検討・決定
9月～11月	○授業実践
12月	○検証授業①
1月	○授業研究：検証授業②
2月～ 3月	○研究のまとめと見直し
H30年 4月	○指導案作成・検討
5月	○検証授業③
～8月	○研究のまとめと提案準備

研究主題

音楽の美しさを聴き取ろう 感じ取ろう そして伝え合おう
～一人一人の思いや意図を実現するための授業づくり～

1 研究副主題

「生き生きと表現する活動を通して、豊かな感性を育てる指導法」
～聴き取る力、表現する力を伸ばす工夫～

2 研究仮説

【仮説 1】

毎時の授業で、音楽の要素に気づくための聞く（聴く）活動を行うことで、“音”への興味・関心を高め、聴き取る力を付けることができるであろう。

【仮説 2】

楽曲の分析（アナリーゼ）により、作詞・作曲家の思いや意図、音楽用語などを理解したうえで、楽譜を見て歌う習慣をつけることが、より深い表現活動につながるであろう。

3 研究内容

【仮説 1】について

- ・導入の挨拶「こんにちは」を音の高さ、リズム、音色を変えて模倣する。それを 2、3 年次では何の音か聴き取り、発表することで、“音”に対して関心を高められると考える。
- ・リコーダーでは、授業の導入で教師の範奏を聴き模倣する。新しく習う音の指使いを知ることやリズムを聴き取ることで意欲が高まり、聴き取る力がつくだろうと考える。
- ・合唱活動でも“聴く”時間を設け、個で考え、グループで話し合い、クラスで共有するという思考・判断の場をつくり、表現を深める。

【仮説 2】について

- ・全ての音楽活動でアナリーゼを行うことで音楽用語などへの苦手意識を無くし、扱う楽曲により親しみ、生き生きと表現できるようにする。
- ・その曲の持つ魅力に気づき、それを生かして表現したり鑑賞したりする。

4 研究計画

29 年 7 月	研究主題と仮説の決定・研究計画	30 年 4 月	指導案作成（検証授業③）
～8 月	指導案作成（検証授業①②）		研修、検討
	研修、検討	5 月	検証授業③＜器楽＞
9 月	検証授業①＜合唱＞	～7 月	研究実践のまとめ、提案準備
11 月	検証授業②＜合唱＞	8 月	提案
～3 月	研究のまとめと見直し		

研究主題

音楽の美しさを聴き取ろう 感じ取ろう そして伝え合おう
～一人一人の思いや意図を実現するための授業づくり～

1 研究副主題

「主体的に音楽を聴き、味わうことのできる指導の工夫」

～鑑賞の学習を通して～

2 研究仮説

【仮説1】

導入を工夫したり、感じ取ったことを曲の流れの中で明確にしたりすれば、楽曲の特徴や音楽を形づくっている要素のかかわり合いに気づき、曲全体を味わうことができるだろう。

【仮説2】

友達と自分の感じたことをお互いに共有したり、共感し合ったりすれば、楽曲のよさや面白さをより深く味わうことができるだろう。

3 研究内容

【仮説1】について

児童が曲全体を味わうためにはまず、楽曲の特徴に気付くことが必要と考える。そのために導入で、似たような構成の鑑賞曲や歌唱曲を扱ったり、音楽に合わせて体を動かす活動を行ったりする。また、普段から歌唱曲や器楽曲を扱う時にも、曲の特徴を捉える活動を積み重ねていく。そうすれば、既習事項とも関連付けて楽曲の特徴に気付くようになると考える。次に音楽を聴いて感じ取ったことが、曲のどの部分のことなのかをはっきりとわかるように板書を工夫する。曲の構造がわかるように可視化することにより、児童は楽曲の特徴だけではなく、音楽を形づくっている要素とのかかわり合いにも気づき、曲全体を味わって聴くことができるようになると考える。

【仮説2】について

楽曲の特徴を捉える活動や、児童が感じ取った楽曲のよさをワークシートに書いたり、音楽リーフレットを作成したりする活動によって自分の伝えたいことをはっきりさせる。それらを使って児童が曲を聴いて感じ取ったことを友達とお互いに共有したり、共感し合ったりしながら様々な感じ方があることに気づき、自分の感じた楽曲のよさを再確認する。そのうえで楽曲を鑑賞し、より深く味わって聴けるようにしたい。

4 研究計画

年	学期	内容
H. 29 年	1 学期	○実態アンケート ○研究主題、仮説の検討・決定
	2 学期	○授業実践 検証授業①
	3 学期	○授業実践 検証授業② ○授業実践のまとめ、研究内容の見直し
H. 30 年	1 学期	○授業実践 検証授業③ ○研究実践のまとめ、提案準備